

ビハーラの歩んだ 20 年と今後

ビハーラ 20 年総括書

1. はじめに 総括にあたって
2. ビハーラ 20 年の歩み
3. 教区ビハーラの現状
4. ビハーラ活動者の養成・育成の現状
5. 中央のビハーラの取り組み
6. ビハーラ活動の反省
7. ビハーラ活動の今後
8. まとめ 今後の発展のために
9. あとがき

1. はじめに 総括にあたって

(1) ビハーラ活動の起点

現代社会は豊かさや便利さを求めて、その実現に科学技術を駆使して発展してきました。また、経済システムも急激にグローバル化が進み、その結果、国内競争だけにとどまらず国家と国家の間の競争を激しくし、一国内だけの格差のみならず国家間の格差も拡大してきています。

豊かさや便利さを求めている人間の本性や野望から、環境破壊や種の絶滅を生み出しています。今日の文明の発達の裏側には、「無縁社会」といわれるように、一人ひとりのいのちを顧みないようなすさまじい人心の荒廃がみられ、自己中心的で内容的に過去に類例をみない事件や事故が日常的に現われてきています。

仏教は常に慈悲の精神を尊び、それが社会全般に広くゆきわたって行くことを望み、伝道教化に努めてきました。

しかし、長い仏教の歴史の中では封建体制に埋没して社会性を見失い、近代になってもなおその封建遺制に甘んじている体質や状況も少なくありません。

如来の大慈悲心に生かされる者は、人々の苦しみや悩みに共感し、積極的に社会活動にかかわってゆくことは明らかです。私たちは、親鸞聖人のみ教えに学ぶことによって、自己中心的な生き方がやぶられ、苦しみの声、悩みの声に傾聴し、ビハーラ活動を展開してきました。1986（昭和61）年に、ビハーラにかかわるための研究や会合を重ね、基本学習会に参加する人の募集に入りました。1987（昭和62）年5月14日から第1期基本学習会を実施しました。



（写真は一般紙社説に紹介されたビハーラ活動）

(2) ビハーラ活動の推移

ビハーラの実践活動を始めるにあたって宗門では、

1. ビハーラ実践活動について
2. 具体的な実践活動
3. 機構について
4. 人材養成について
5. 1987（昭和62）年度の養成活動事項について

の5項目の「ビハーラ実践活動基本構想」を決めて取り組みを始めました。当初、「ビハーラ実践活動について」次のような基本構想をもっていました。

ビハーラ (V i h a r a) とは、サンスクリット語にして、「休息の場所」「僧院」または「寺院」などという意味のほか、「安住」と漢訳されており、「存立する」「身も心も安んじる」などという意味もあります。現代社会は、核家族化・都市化、更に高齢化の現況も加わり、病院における死亡率は70%にもおよぶといわれております。かかる状況によって病床に伏す人々からは勿論のこと、多くの医療に携わる人々からもこの状況に対して、宗教者として手をさしのべてほしいとの要望があります。

宗門としても『教書』において、社会の変化により「自己自身を見失い、ひいては他の人びとの人格や、生命一般の尊厳性をも正しく見ることができなくなってきました。」と、ご指摘になっておられますお意を体し、病床にある人々の老・病・死の苦悩の解決のために、又、生命の尊厳性を正しく見つめることができるようにとの願いをもって、ビハーラ活動を実践いたすべくその人材養成を始めます。

ビハーラ実践活動の概念については、入院・在宅を問わず、病床に伏す人々のもつ精神的な悩みに対し、それを和らげ、人間としての尊厳性を保ちつつ生きられるよう、家族など多くの人々とともに宗教者として精神的介護（ケア）に当たるものです。

(1987年3月「ビハーラ実践活動基本構想」より)

ビハーラ活動のスタート時点では、これこそ仏教徒が、念仏者が身を挺してやるべき時宜を得た活動だという意気込みが感じられました。また宗門外の有識者からは称賛の声が届き、各新聞社やTV局はこぞってニュースや特集を組んで報道しました。

ビハーラ活動も試行錯誤を重ねた10年を経ると、様々な課題が生じてきました。特に必要なことは、「ビハーラ活動の啓発」と「ビハーラ活動の人材養成」ということでした。

地道に継続してきたビハーラ活動の現場では、「病院や施設の要請に応えるだけの会員がいない」「これまでの活動者が高齢化して出てこれられなくなっている」「もっと強力な啓発や研修をして、実践活動者を育成してほしい」などの声が多くなってきました。

社会の期待が大きいのに、それに応じられるだけのビハーラ活動者がいないということが浮き彫りになってきました。ビハーラ活動発展の課題として多かった、「1. 僧侶や寺院の体質の問題 2. 教団の強力な変革 3. 教団組織の中の位置づけの問題 4. 教義の解釈と社会性の問題」（「ビハーラ活動10年総括書」による）によるのでしょうか。

しかしながらビハーラ活動10年を経て、他の教団にも着実に広がり、活動を理解する人も少しずつ増えてきました。それは会員数においても、活動施設についても、また活動態様についても、確実に増えてきています。

その実態を正確に把握して、ビハーラ活動30年を視野において、次の10年の進展に取り組もうとするのが、本総括書作成の意義です。

(3) 活動実績を積み上げてきた 20 年

「動きながら考え、考えながら動く」、それは活動現場をもつ者に欠かせない態度です。ここまで、様々な疑問・批判・不安の交錯する中で、今日新しい胎動も生まれてきています。

教団の中で最も大きな組織、仏教婦人会が女性活動として取り入れ、長い継続と細やかな気づきを特長として実績を広く深くしてきている、という報告もあります。またこれまで、教区で1つのビハーラ組織として限られた地域にしか活動できなかったものを、実践現場に近い場所で組織分化ができ、「活動がしやすい」「時間も有効に使え、経費も安くできる」という特長を十分に発揮しているところも増えつつあります。

「開かれた宗門」の実践に向け、積極的に社会に出て行く活動として大きな期待があったといってよいでしょう。

教区ビハーラの活動もより深化し、仏教ケアの実績もあげてきており、それぞれの地域で認知を受け期待されてきています。

従来 of 活動の上に、さらにビハーラ活動を広げることと深めることを続け、その実績を集約し、内外に周知して行くなればその将来は大きく開けてゆくことになるでしょう。

2. ビハーラ 20 年の歩み

私たちの教団では、1986(昭和 61)年にビハーラ活動を実践するため必要だった組織体、「ビハーラ活動研究会」を発足させました。そして、翌年の 1987(昭和 62)年「ビハーラ活動者養成研修会」をスタートさせるため第 1 期の募集に入りました。もちろん、その前に可能性・方向性などを考究するため、当時の伝道院において研究チームを発足させていました。

その結果 59 名の応募があり、内訳は男性 49 名、女性 10 名でありました。僧侶が 90% を占め、寺族 2%、門信徒 8%でした。このようにして始まった養成研修修了者たちも、第 18 期修了時点で総計 998 名(男性 476 名、女性 522 名、僧侶 64%、寺族 10%、門徒 26%)となり、各教区や施設・病院などの拠点でともに活動しているビハーラ活動者は、現時点で 6,440 名となっております。

私たち念仏者の生きる姿勢は、かけがえのないいのちの尊厳にめざめ、そのめざめたものが御同朋とおもいやり、生きるところにあります。しかし、人の一生は、生・老・病・死の人生であり、生苦・老苦・病苦・死苦を逃れることができません。それらの苦悩する人々に寄り添う具体的活動として、「ビハーラ活動」に取り組んできました。そしてこれまで、ビハーラ活動は不安に共感し、苦悩を和らげる全人的な支援ケアをしてきました。

そして、2007(平成 19)年 11 月 1 日、本願寺において「ビハーラ 20 周年記念大会」を、「ビハーラ活動 20 年ーさらなる飛躍を願ってー」のテーマのもと開催いたしました。

この過去 20 年の歩みをふり返り、「ビハーラの今」を明らかにすることによって、これからの飛躍の可能性を探ってみたいと思います。

ビハーラ 10 年を省みたとき、1980 年後半から進んだ医療技術による生命操作や高度経

済成長に伴って急速な少子高齢化社会の訪れは、社会的な混迷を深めたことを指摘しました。どちらかといえば、これまで隠されていた生老病死に対する社会的要請から、人間の「いのち」のありようを改めて根源的に問いなおさざるを得ない状況になったともいえると、述べました。

そこでビハーラ 20 年を省みたとき、政治や経済はもちろんのこと、自死する人が年間 3 万名いる日本の状況からみても、さらに混迷を深めた時代であるかが伺えます。

しかしそのことは、真実の宗教そのものの真価が問われているときであり、同時に真実の宗教に生きる人間の生きざま、苦悩する人々へのかかわり方が問われているときでもあります。

ビハーラ実践活動は、つねにその時代を認識しつつ、そのおかれている人間状況を見詰めて、現代社会の「いのち」の問題に取り組む教団として、また教団人としての社会的責務ととらえ、自覚的に積極的に取り組んで具体的な活動をしてきたといえるでしょう。

ビハーラ活動に着手して最初の 10 年は、試行錯誤の連続であった「歩きながら考える」式の歩みでありました。しかし、社会的に大きな注視を浴びたこの萌芽の第一ラウンドが、その育んだハードとソフトの蓄積を的確に集約し、次の第 2 ラウンドに生かせるかにかかっていた。

そのような期待も、20 年目を迎えたいま、続けてきた養成研修会の初期修了者の人たちの高齢化や個人活動にとどまる人などもあって、拡大発展一路であったビハーラ活動も、ここにきてやや滞留してきたきらいが見えます。しかし、いつでも教団全体の社会的かかわりを支えてきたのは、教区ビハーラの活動でした。それは蓮如上人 500 回遠忌法要のため、活動者養成を休止した時、停滞の恐れを指摘されましたがその困難を乗り越えることができたのも、たゆみのない教区ビハーラを中心とした活動にありました。またそれらを、中央のビハーラ活動推進協議会（現在のビハーラ活動推進委員会）もビハーラ活動専門部会（現在、企画研究専門部会・養成研修専門部会）も支援し活性化を促すため、研究し、育成し、資料発行等々を進めてきました。（注：1999 年度から 2000 年度の 2 年度は活動ネットワーク専門部会が設置されました。）

(1)ビハーラ 20 年、年表の語るもの

ここで過去の 20 年の歩みを大枠であらわしますと、次の年表を参考にして区分できることでしょう。

◆ビハーラ創造の時代 (1986 年—1989 年)

◆ビハーラ教区展開の時代 (1990 年—2000 年)

◆ビハーラ見直しの時代 (2001 年—2008 年)

①ビハーラ創造の時代(1986年—1989年)

宗門では、1986(昭和61)年にいち早く「医療と宗教(伝道)に関する専門委員会」を創設し、その研究結果は「医療と宗教」という教学シリーズの一冊に加えられています。同時に本山の宗務所において研修部所管で「ビハーラ研究会」を設置しました。しかし、研究会だけでは早く具体的に研修や実践態勢に入れないので、「ビハーラ実践活動研究会」と名称を改めて、会員募集を始め、まず研修を受ける形にしました。

一方、具体的な細部の研修プランやカリキュラム、そしてその指導体制を確立する必要があるので、「ビハーラ実践活動専門委員会」を設置しました。

この専門委員会で、学識者を中心に具体的な企画や資料作りをしました。すべてがクリエイティブ(創造的)な作業で、それだけに専門性や経験をもったブレインの力で進めることができました。これらの委員たちも、日本に先行的にホスピスを取り入れた病院、浜松市の「聖隷三方原病院」を訪問し、原義雄院長のホスピスの講義を受け、ホスピス病棟の案内を受ける経験もしました。

ビハーラの基本構想やカリキュラムができると、「本願寺新報」などを通じて「第1期基本学習会」の受講者募集に入りました。2年間の研修が終わると、組織的に教区でビハーラ活動の実践が始まり、福井教区と大阪教区でビハーラ組織が結成されました。

このビハーラ活動の創生期には、こぞって新聞は論説・論評・ニュースなどに取り上げ、各TV局も積極的に取材して、広く報道されたことでした。

②ビハーラ教区展開の時代(1990年—2000年)

1990(平成2)年までに6教区でビハーラ団体が設立され、活動が組織的に展開されていました。しかし、同年になりますと一挙に5教区でビハーラ組織が立ちあげられました。それは、ビハーラ基本学習会の修了者が教区ごとに集まり、ビハーラ活動の実践場所を交渉し、組織的に活動したことによります。それは、修了時にあたって強く組織化の要請をしたことの結果でもありました。

ビハーラ活動の担当部署を本願寺では最初研修部所管で行っていましたが、「基本学習会」の修了者が出てくると、その活動者は社会部所管で行うことになりました。そして、2つの部署にわたる不都合から、養成も活動もビハーラ全業務が社会部となったのは、1992(平成4)年でした。1993(平成5)年には、本願寺を主会場にして、「第1回ビハーラ活動全国集会」を開催したことでした。

この時代で特筆に値するのは、「第6回ビハーラ全国集会」があらゆる条件から特長をもった形で成功したことでした。受け入れ態勢で長野教区と新潟教区の2教区協力で行われたこと、池の平温泉という自然環境に恵まれた場所と施設分散で行われたこと、教区内の大きな協力体制のもと地域も深くかかわる形で行われたことなどです。地方開催における地元に与えた影響力も大変大きなものがありました。

ネットワーク理論のもと組織ネットワークの発展のため教区ビハーラに期待をし、ビハーラ活動専門委員会に「活動ネットワーク専門部会」を設け、教区と中央の間の情報提供と

集約の拡大強化を検討してきました。

一方情報ネットワークの構築として、本願寺ホームページの社会部の中にビハーラ活動の情報を提供して、アクセスする人たちの便宜に供することになりました。

③ビハーラ見直しの時代(2001年—2008年)

これまでの歩みの中からビハーラ推進に必要なルールを、内規として「教区ビハーラ代表者会」「ビハーラ活動全国集会」の規約が決められました。

「ビハーラ活動養成者研修カリキュラム」も過去の点検反省の上に立って改正した新しい理念の徹底と、よりカウンセリングの理論習得と実践実習を強化するため、2005（平成17）年にカリキュラムを改定して新たな養成に入りました。

また宗門全体でも親鸞聖人 750 回大遠忌法要を迎えるにあたって、宗門長期振興計画推進協議会第 3 部会（現在の第 4 部会）に「社会福祉施設の建設に関する専門委員会」が組織され具体化の審議がなされました。その結果、2008（平成 20）年 4 月 1 日には特別養護老人ホーム「ビハーラ本願寺」と有床診療所「あそかビハーラクリニック」が開所いたしました。今後は、ビハーラ活動者養成時にあたって有効利用されるとともに、ビハーラケアの全国発信基地の役割も期待されています。

2007（平成 19）年 11 月 1 日には、「ビハーラ活動 20 年記念大会」を開催し、式典には長年の活動を顧み、今後のさらなる活動発展を確認することができました。

(2)ビハーラ 20 年の年表(年度別)

年 度	活動の動き	備 考
1986 (昭和 61) 年	「医療と宗教(伝道)に関する専門委員会」設置(教学本部) (10/25) ビハーラ研究会(仮称)設置 (11/7) ビハーラ実践活動研究会 (1/21) ビハーラ研究会代表委員委嘱 (12/22) ビハーラ実践活動専門委員会 (1/21) ビハーラ研究会準備委員会 (4回) ビハーラ実践活動基本構想決定 (3/9)	シンポジウム「いのちをか んがえる」教学本部伝道院 主催 (3/28)
1987 (昭和 62) 年	ビハーラ推進協議会設置 (8/6) ビハーラ問題協議会・幹事会設置 (11/13) ビハーラ研究協議会 (3/29 浜松聖隷三方原病院) ビハーラ問題協議会 (3回) 第 1 期基本学習会 1 回:5/14~16 2 回:6/17~18 3 回:12/8~10 教区ビハーラ結成(ビハーラ福井、ビハーラ大阪)	『宗報』にビハーラ関係の 連載がはじまる 仏教ホスピスの会が「がん 患者・家族の語らいの集 い」開設(毎週土曜・築地 本願寺)

<p>1988 (昭和 63) 年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (3 回) 第 1 回ビハーラ懇話会 (3/24) 第 2 期基本学習会 1 回:5/25~27 2 回:6/17~18 3 回:12/7~9 4 回:3/13~15 (1 期) 教区ビハーラ結成 (ビハーラ東海、北海道ビハーラの会)</p>	<p>米国社会福祉施設視察研修旅行 (社推協・8 月)</p>
<p>1989 (平成元) 年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (4 回) 第 2 回ビハーラ懇話会 (11/29) 第 3 期基本学習会 1 回:5/24~29 2 回:6/19~20 3 回:12/6~8 4 回:3/12~14 (2 期) 教区ビハーラ結成 (ビハーラ奈良、浄土真宗東京ビハーラ)</p>	
<p>1990 (平成 2) 年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (3 回) 第 4 期基本学習会 1 回:5/23~25 2 回:6/20・21 3 回:12/5~7 4 回:3/13~15 (3 期) 教区ビハーラ結成 (ビハーラ富山、ビハーラ安芸 ビハーラ山陰、ビハーラ山口、ビハーラ熊本) 「医療と宗教」(教学シリーズ NO. 4) 発刊 (3/30)</p>	<p>ビハーラ花の里病院設立 米国 (ハワイ) 福祉施設視察研修旅行 (社推協) 住職課程および研修会講師養成中央実習にて「ビハーラ」についての講義がはじまる 「仏教フォーラム」開催</p>
<p>1991 (平成 3) 年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (2 回) 第 5 期基本学習会 1 回:6/5~7 2 回:6/26・27 3 回:12/4~6 4 回:92/3/11~13 (4 期) 教区ビハーラ結成 (ビハーラ長野、ビハーラ兵庫 ビハーラ鹿児島、ビハーラ高岡 ビハーラ北豊、ビハーラ “シガ”) 活動に関する教材資料発行 ①リーフレット「こころの安らぎ」 ②リーフレット「ビハーラ活動の概要」 ③リーフレット「いのちの輝き」 ④パンフレット「ビハーラ」初版 ⑤冊子「ビハーラの現状と課題Ⅰ」 「ビハーラの現状と課題Ⅱ」(「宗報」抜き刷り) ⑥会員通信誌「ビハーラ通信」を発行 「浄土真宗福祉白書」第 6 号第 4 章に 「ビハーラ活動について」掲載 (9/1)</p>	<p>中央仏教学院にて「ビハーラ愛好会」発足</p>

<p>1992 (平成4)年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (1回) ビハーラシンポジウム (庁舎 1/22) 第6期基本学習会 1回:5/13~15 2回:6/18~19 3回:12/9~11 4回:3/10~12 (5期) 第1次) ビハーラ活動推進 (コーディネーター) 養成研修会 1/26~27 3/24~26 教区ビハーラ結成 (ビハーラ岐阜、ビハーラ新潟、ビハーラ京都) 『ビハーラ活動ー仏教と医療と福祉のチームワーカー』発行</p>	<p>本派高齢者福祉施設連絡協議会結成 ヨーロッパ社会福祉施設視察研修旅行 (社推協) ビハーラ関係業務が研修部から社会部へ移管</p>
<p>1993 (平成5)年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (1回) 第1回ビハーラ活動全国集会 (本山 2/5) 第7期基本学習会 1回:5/17~19 2回:6/17~18 3回:12/7~9 4回:2/2~4 (6期) 第1次) ビハーラ活動推進者 (コーディネーター) 養成研修 6/3~4 9/8~10 1/25~26 3/8~9 計6回 教区ビハーラ結成 (西本願寺ビハーラ長崎、ビハーラ佐賀) 「浄土真宗福祉白書」第7号第4章3に 「ビハーラ活動について」掲載 (12/1)</p>	
<p>1994 (平成6)年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (4回) 第2回ビハーラ活動全国集会 (築地別院 2/4~5) ◆全国集会にて阪神・淡路大震災緊急救援活動を決議 「ビハーラ救援センター」活動拠点として津村別院に設置 (後に本山に設置) 第8期基本学習会 1回:5/9~11 2回:6/22~23 3回:12/7~9 4回:95/2/7~9 (7期) 第2次) ビハーラ活動推進者 (コーディネーター) 養成研修 7/5~7 10/4~5 1/25~26 教区ビハーラ結成 (ビハーラ東北、ビハーラ四国 ビハーラ和歌山、ビハーラ宮崎) 『宗報』の掲載内容を「焦点ビハーラ」と改める</p>	<p>ヨーロッパ社会福祉施設視察 (社推協) 阪神・淡路大震災 (1/17)</p>

<p>1995 (平成7)年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (2回) 第3回ビハーラ活動全国集会 (神戸別院 2/3~4) 第9期基本学習会 1回:5/30~6/1 2回:6/20~21 3回:12/6~8 4回:2/7~9 (8期) 第2次)ビハーラ活動推進者(コーディネーター)養成研修 7/5~7 10/5~6 1/25~26 (計6回) ◆ビハーラ救援センター設置【阪神・淡路大震災被災地の避難所 や仮設住宅への訪問活動がはじまる(~1998年度)】 教区ビハーラ結成(上越ビハーラの会、ビハーラいしかわ、 ビハーラ大分) ビハーラ専門委員会班編制(3月より) ・実践記録作成班 ・カリキュラム点検班 ・教育システム班 ・総合点検・研究班</p>	<p>カナダ社会福祉施設視察 (ACPE全米臨床牧会 教育協議会との交流) 教師教修にて「ビハーラ」 についての講義がはじま る</p>
<p>1996 (平成8)年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (1回) 第10期基本学習会 1回:5/7~9 2回:6/25~26 3回:12/17~19 4回:2/5~7 (9期) 第4回ビハーラ活動全国集会 (広島別院) 2/4~5 教区ビハーラ結成(ビハーラ福岡、ビハーラ備後)【全教区結成】</p>	
<p>1997 (平成9)年</p>	<p>第10期基本学習会 4回:11/26~28 (10期) 基本学習会新規募集休止 「浄土真宗福祉白書」第9号第7章4に 「ビハーラ活動について」掲載(3/31)</p>	
<p>1998 (平成10)年</p>	<p>ビハーラ問題協議会 (2回) 第5回ビハーラ活動全国集会 (本山 9/26~27) 「ビハーラ10年総括書」発行</p>	<p>蓮如上人500回遠忌法要 ご満座法要においてご門 主様ご消息を發布される</p>
<p>1999 (平成11)年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会設置 3部会(養成研修・活動ネットワーク・企画研究)設置 ビハーラ活動の理念・方向性改訂 第11期ビハーラ活動者養成研修会 1回:5/18~20 2回:6/23~25 3回:12/8~10 4回:2/7~9 台湾大地震復興支援出向</p>	<p>台湾大地震(9/21)</p>

	<p>ビハーラ活動者養成研修会受講並びに 修了資格に関する内規施行 第6回ビハーラ活動全国集会（長野・池の平温泉 7/20～21）</p>	
<p>2000 （平成12）年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会（2回） 養成研修専門部会（6回） 活動ネットワーク専門部会（2回） 企画研究専門部会（2回） 教区ビハーラ事務担当者会（1回） 教区ビハーラ代表者会規約制定 第12期ビハーラ活動者養成研修会 1回:5/24～26 2回:6/21～22 3回:12/13～15 4回:2/7～9 第7回ビハーラ活動全国集会 （本山 11/26～27） 「浄土真宗福祉白書」第10号第2章に「ビハーラ活動」掲載（5/2）</p>	<p>龍谷大学「ビハーラ活動者 養成課程」開設</p>
<p>2001 （平成13）年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会（2回） 教区ビハーラ代表者・事務担当者会 啓発パンフレット、リーフレット改訂版作成 第13期ビハーラ活動者養成研修会 1回:5/23～25 2回:6/19～20 3回:12/12～14 4回:3/6～8（12期） 第8回ビハーラ活動全国集会 （岐阜 9/29～30）</p>	<p>ビハーラ福井NPO認証</p>
<p>2002 （平成14）年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会（3回） 養成研修専門部会（3回） 企画研究専門部会（2回） 教区ビハーラ代表者会・常任委員会・事務担当者会（2回） ビハーラ活動全国集会開催にかかる内規施行 第14期ビハーラ活動者養成研修会 1回:5/28～30 2回:7/2～3 3回:12/17～19 4回:3/1～3（13期） 第9回ビハーラ活動全国集会 （本山 9/7～8）</p>	<p>米国（ハワイ）福祉施設視 察研修旅行（社推協）</p>

<p>2003 (平成 15) 年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会 (2回) 養成研修専門部会 (1回) 教区ビハーラ代表者会・常任委員会・事務担当者会 (1回) 第15期ビハーラ活動者養成研修会 1回:6/3～5 2回:7/1～3 3回:11/25～27 4回:3/2～4 (14期) 第10回ビハーラ活動全国集会 (福井・芦原温泉 8/30～31)</p>	<p>機構改革により社会部から伝道社会部へ所掌移行</p>
<p>2004 (平成 16) 年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会 (2回) 養成研修専門部会 (1回) 教区ビハーラ代表者会・常任委員会・事務担当者会 (2回) 第16期ビハーラ活動者養成研修会 1回:6/1～3 2回:7/6～8 3回:11/30～2 4回:3/1～3 (15期) 第11回ビハーラ活動全国集会 (本山 10/2～3) 新潟・福井豪雨災害復興支援出向 新潟中越地震災害復興支援出向</p>	<p>新潟・福井豪雨 新潟中越地震 (10/23)</p>
<p>2005 (平成 17) 年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会 (4回) 養成研修専門部会 (3回) 養成研修専門部会作業部会 (2回) 企画研究専門部会 (2回) 教区ビハーラ代表者会 (1回) 宗門長期振興計画推進協議会第3部会「社会福祉施設の建設に関する専門委員会」組織 (2回) 第16期ビハーラ活動者養成研修会 4回:3/1～3 【ビハーラ活動者養成研修会新規募集1年休止】 養成研修会カリキュラム改訂 第12回ビハーラ活動全国集会 (熊本 6/18～19)</p>	
<p>2006 (平成 18) 年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会 (2回) 養成研修専門部会 (2回) 企画研究専門部会 (2回) 教区ビハーラ代表者会 (1回) 宗門長期振興計画推進協議会第4部会「社会福祉施設の建設に関する専門委員会」組織 (4回) 宗門ビハーラ施設における共通の理念検討に関する会議 (3回) 第17期ビハーラ活動者養成研修会 1回:5/17～19 2回:7/7～9 3回:10/31～11/2 4回:3/1～3</p>	<p>養成研修会基本学習会に聴講制度導入 能登半島地震 (3/25)</p>

<p>2007 (平成 19) 年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会 (1回) 企画研究専門部会 (2回) 教区ビハーラ代表者会 (1回) ビハーラ総合施設有識者会議 (1回) 第 18 期ビハーラ活動者養成研修会 1 回:5/23～25 2 回:7/6～8 3 回:10/2～10/4 4 回:3/3～5 ビハーラ活動 20 周年記念大会 (本山 11/1) 贈呈施設 (特養あそか園・特養黒野あそか苑・特養京都厚生園 社会福祉法人慶徳会・特養慈光園) 贈呈者 (中根超信・鍋島直樹・早川一光・三上元之・村山惟子) 新潟中越地震災害復興支援出向</p>	<p>新潟中越沖地震 (7/16)</p>
<p>2008 (平成 20) 年</p>	<p>ビハーラ活動推進委員会 (2回) 養成研修専門部会 (2回) 企画研究専門部会 (2回) 教区ビハーラ代表者会 (1回) 第 19 期ビハーラ活動者養成研修会 1 回:5/27～29 2 回:7/4～6 3 回:11/18～11/20 4 回:3/2～4 第 13 回ビハーラ活動全国集会 (本山 1/31～2/1) ビハーラ総合施設開所 (4/1) 【「特別養護老人ホーム「ビハーラ本願寺」 (入所 100 名・ショートステイ 8 名) 有床診療所「あそかビハーラクリニック」(定員 19 名)】</p>	<p>機構改革により伝道社会 部から社会部へ所掌移管 岩手内陸地震 (6/14) NPO 法人 JIPPO 設立 (11/5)</p>

(3)ビハーラ活動の現状分析

①ビハーラ理念

「ビハーラ」(Vihara)とは、古代インドにおいて仏教経典の記録などに使用されたサンスクリット語で、「精舎・僧院」「身心の安らぎ」「休息の場所」を原意とします。インドからインドネシアのプランバナンに仏教が伝来して建設されたチャンディ・カラサン(カラサン寺院)などは、その形を今に伝えています。

ビハーラという言葉は、昭和 60 (1985) 年に、当時仏教大学社会事業研究所にいた田宮仁研究員が、水谷幸正学長と相談し提唱されました。田宮仁氏は、そのビハーラという言葉「仏教を背景としたターミナルケア(終末医療)施設」の呼称として提唱されました。「仏教ホスピス」では木に竹を継いだようなので、仏教主体の言葉として主張し、寺院と病

院をあわせもった施設をビハーラとしています。その背景には、誰もが抱える「生・老・病・死」の苦悩について、医療や福祉だけでなく、仏教徒が一緒になり、責任をもって応えていきたいという願いがあります。振り返ってみると、釈尊の時代から日本の浄土教に至るまで、仏教徒が病人をあたたかく看取り、これを縁として、自分自身の人生を見つめ直し、皆ともに助け合って、「生・老・病・死」を超えたまことの仏法を求めました。源信和尚の『往生要集』に説かれる臨終行儀や看取りの場所としての「無常院」などは、浄土教独自の活動でした。

当初は、ビハーラ実践活動基本構想（1987年3月決定）によると、「入院・在宅を問わず、病床に伏す人々のもつ精神的な悩みに対し、それを和らげ、人間としての尊厳を保ちつつ生きられるよう、家族など多くの人々とともに宗教者として精神的介護（ケア）にあたるもの」をビハーラ活動としています。そこに安らぎが生じ、生老病死を見つめ、いまここに生きている意味を問い、具体的活動を展開することをいいます。如来の本願を聞きひらき凡夫にめざめた生活姿勢を基本として、人々の苦しみや不安に共感し、それらを和らげる行動としています。

あらゆる生命ははかないものです。その生命のうえに、仏に願われないのちのかけがえのなさに目覚め、お互いが思いやりあうところに仏教徒の生きる姿勢があります。（本稿では、生物的命を「生命」とあらわし、宗教的生命を「いのち」とあらわします）。

私たちは病院や施設で死を迎えるようになりました。日常、身近に死にふれることが少なくなった社会では、病院や施設ではじめて大切な人や自分自身の死と向き合います。病の苦しみを抱えた患者やその家族が心の救いを求めている時に、私たち仏教徒がその方々のそばにいて、話を聞いてあげることができたら、その方々の心の支えになることでしょう。すなわち、臨終もまた一つの平生であり、この世を超えた真実を求める時期であるといえます。

宗門では、昭和 62（1987）年に「ビハーラ活動」が始まりました。この「ビハーラ活動」とは、仏教徒が、仏教・医療・福祉のチームワークによって、患者を孤独のなかに置き去りにしないように、患者とその家族の心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする活動です。すなわち、不安や悲しみを抱えた患者と家族を全人的に支援する活動、いのちの尊さに気づかされた人たちが集う共同体を意味します。

ご門主様は『教書』のなかで、如来の本願を仰ぎ、凡夫に目覚めた私たちの生活の姿勢について「自分だけの殻に閉じこもらず、自分自身がつくりかえられ、人びとの苦しみに共感し、積極的に社会にかかわってゆく態度も形成されてゆくであります。それが同時に、開かれた宗門のあり方でもあります。」と述べられています。ビハーラ活動はまさしく人の苦しみに共感し、本当の心の安らぎを求める活動です。

ビハーラは理念から出発するというより、生老病死に苦悩する現実に関わる活動から始まるものであるといえましょう。ビハーラ会員の共通認識し、社会の理解を受けることのできるよう、最初のころの 10 年は「ビハーラ活動の方向性」を 4 か条で示しました。

その後、新に検討を加え「ビハーラの 5 つの方向性」として示し、その共通理解のもと現在のビハーラ活動は進められています。それぞれの項目ごとの詳細な意味内容・活動方向も決められていますが、ここに省略して示します。

②ビハーラ活動の5つの方向性

1. 広く社会の苦悩にかかわるビハーラ
2. 自発的にかかわるビハーラ
3. 相手の心に聴くビハーラ
4. 医療・福祉と共にあるビハーラ
5. 深いいのちを見つめるビハーラ

③各教区におけるスローガン等

それでは各教区ビハーラで提示している、ビハーラの理念に関しますスローガン等について挙げておきます。(第12回全国集会資料より)

○東京教区ビハーラ活動推進委員会

- 目 標 「御同朋の社会をめざして」
- テ ー マ 「苦しみの中で 共に安らぎを」
- 活動方針 「浄土真宗におけるビハーラケアの探究」

○上越ビハーラの会

仏教徒の立場で老・病・死に接し、自他のいのちの重さ大切さに目覚め、支えあい・学びあうために、会員一同、実践・研修に努めていきます。

○ビハーラ富山

「私にできる範囲から、楽しいビハーラ活動」が「心のふれあい、いのちの共感」へと繋がっていきます

○ビハーラ福井

願われないのちの尊さに気づき、孤立したところところをつなぐ活動を

○ビハーラ岐阜

いのち まいにち あたらしい とともに手をつなごう とともに生きよう とともに聞こう

○ビハーラ東海

老・病・死の苦悩を持つ方々とのふれあいを通して喜びも、悲しみも、怒りも、楽しみも、痛みも共に分かち合えたら
・・・そして私たち一人ひとりの生死を見つめていきたい・・・。

○ビハーラ京都

スローガン「豊かないのちをめざして！」

活動方針 ビハーラ活動・学習を通して、いのちをみつめ、いのちを輝かせ共に歩み、共に支えあい、現代社会の課題に応える。

○ビハーラ奈良

ビハーラは、浄土真宗の教団の活動であり、浄土真宗のみ教えに基づいた活動です。ビハーラ活動において人と人とが交流するとき、互いに同じ視点に立つことで、信頼し合い、いたみが共に伝わっていき、そのことによって課題を共有化していくことがこの活動の願いであります。つまり、信心に基づき、連帯に立った諸活動であることを確認する営みであります。(以下略)

○ビハーラ備後

「医療と福祉と共に」

○ビハーラ安芸

病床や高齢者施設におられる方々、またそのご家族の精神的な不安や苦悩に寄り添い、それらを和らげ、安住を促し、医療・福祉関係者などと共に、生き抜こうとされる方の支えになろうとすることを主眼とする活動を「ビハーラ活動」として提唱し、振興する。

○ビハーラ福岡

いのち みつめて おいること やむこと しぬということ

○ビハーラ熊本

いのちによりそうビハーラ「ビハーラ」とは、「安らぎの場所」という意味のインドの古い言葉です。考えてみますと、私たちは現代社会の中で本当の安らぎ場所を見失っていないでしょうか。私たち「ビハーラ熊本」は、仏教（浄土真宗）が教えるいのちの尊厳と平等のこころをともしびとして、本当の安らぎを求める人々のいのち（生老病死）によりそいたいと願うものの集いです。

○沖縄県宗務特別区

「まずは行動を！」をスローガンとして、現場において人間の誰しものが抱える苦悩（生・老・病・死）を通して、共にみ教えに出会っていける環境づくりや、自分自身が多くの

人（いのち）の支えによって生かされていることに気づかせていただくことから始めていきたいと思います。

3. 教区ビハーラの現状

(1) ビハーラ活動の現状

ビハーラ活動は、個人活動をされている場合もありますが、多くは教区ビハーラにかかわった形で推進されてきました。その推進力を発揮されるように支援するため、本山で2次4年間にわたって「ビハーラ活動推進者(コーディネーター)養成研修」を行いました。修了者には、ただちにビハーラ代表者となった人もありますが、必ずしも教区のコーディネーター役を担われたわけではありませんでした。

しかし、1987（昭和62）年に始められた「ビハーラ基本学習会」の修了者は、その現場にかかわって活動を推進し、またその中から教区ビハーラの運営推進役になったり、広く活動現場を持ったりされています。教区ビハーラが全教区に立ちあがったのは1996（平成8）年のことでした。教区の受け皿がない場合、共に活動する人を募ったり、活動する施設・病院をさがし受け入れを願ったり、初めてビハーラ活動が定例的に行われ、高齢者や患者との接点で活動できたことです。

それでは、会員の状況はどうなっているのでしょうか、まず「基本学習会」を受けた人の推移を見てみます。

第18期までの「ビハーラ活動養成者研修会」の修了者は998名（男性476名、女性522名、研修時の平均年齢46.1歳）です。沖縄県宗務特別区を除くと北豊教区18名から兵庫教区55名まで、応募方法、募集広報、会員の勧誘など教区によって大きな違いがあります。

ビハーラ活動推進委員会では、研修の修了者だけでも結束し、教区ビハーラ活動できるように、つねに一定の標準をきめて応募を続けてきました。

しかし、修了者よりもビハーラ会員の少ない教区もあり、少なくとも教区でどのように対応するか、該当教区では検討すべきでしょう。集まって話し合えば、解決策、具体策が出てくることも考えられます。

次に修了者だけでなく、各教区の会員はどのような状況でしょうか。一覧にて供します。

(2) 教区ビハーラ活動者一覧

名 称	養成研修修了者 (第 18 期修了時)	平成 20 年度活動者
北海道ビハーラの会	49	355
ビハーラ東北	20	10
浄土真宗東京ビハーラ	30	330
ビハーラ長野	28	179
上越ビハーラの会	24	140
ビハーラ新潟	24	20
ビハーラ富山	34	134
ビハーラ高岡	31	178
ビハーラいしかわ	27	65
ビハーラ福井	38	104
ビハーラ岐阜	35	121
ビハーラ東海	37	30
ビハーラ “シガ”	32	53
ビハーラ京都	28	49
ビハーラ奈良	35	534
ビハーラ大阪	52	87
ビハーラ和歌山	18	10
ビハーラ兵庫	55	55
ビハーラ山陰	45	875
ビハーラ四国	32	32
ビハーラ備後	28	581
ビハーラ安芸	44	326
ビハーラ山口	45	1,491
ビハーラ北豊	15	46
ビハーラ福岡	32	89
ビハーラ大分	28	147
ビハーラ佐賀	30	230
西本願寺ビハーラ長崎	20	29
ビハーラ熊本	31	85
ビハーラ宮崎	21	9
ビハーラ鹿児島	26	89
沖縄宗務特別区	4	1
合 計	998	6,440

(3) 教区内活動団体一覧

教区	ビハーラ団体名等	主な地域	活動施設			主な活動者
			活動者数	施設数	施設種別	
北海道	ビハーラ札幌	札幌市	20	1	特養	ビハーラ活動者
	ビハーラ東林寺	倶知安町	80	1	特養	ビハーラ活動者・東林寺門徒
	ビハーラニセコ	ニセコ町	30	1	特養	ビハーラ活動者・照覚寺門徒
	ビハーラ in ルスツ	留寿都町	75	1	特養	ビハーラ活動者・富貴寺寺族・門徒
	ビハーラ空南	岩見沢市	35	1	特養	ビハーラ活動者・寺族・門徒
	やすらぎの家	奈井江町	15	1	特養	ビハーラ活動者・寺族・門徒
	滝川ビハーラの会	滝川市	20	1	特養	ビハーラ活動者・寺族・門徒
	ビハーラ上南	比布町	20	1	特養	ビハーラ活動者・寺族・門徒
	ビハーラ鶴川	むかわ町	7	1	特養	ビハーラ活動者・寺族・門徒
	ビハーラ胆西	伊達市	6	1	特養	ビハーラ活動者・寺族・門徒
	ビハーラ穂別	むかわ町	7	1	特養	ビハーラ活動者・寺族・門徒
	ビハーラ十勝	帯広市	15	1	特養	ビハーラ活動者・寺族・門徒
	ビハーラ釧路	釧路市	25	1	病院（釧路北病院）	ビハーラ活動者・寺族・門徒
東北	ビハーラ東北	教区内	10	2	特養	ビハーラ会員・雅楽の会「響流会」
東京	ビハーラ東京	教区内	266		その他（がん患者語らいの会）	ビハーラ会員
	ジョイコールふじ桜	富士吉田市	30	1	特養	都留組正福寺仏教婦人会会員・コーラス会員
	都留正福寺ビハーラの会	富士吉田市	13	1	寺院施設	ビハーラ会員
	群馬ビハーラ	群馬県内	20	1	病院	住職・坊守・衆徒・門信徒
	埼玉組真応寺	東京都台東区	1	1	特養（あそか園）	門徒
長野	ビハーラ長野	教区内	179	7	特養・病院	ビハーラ会員
国府	上越ビハーラの会	上越市・妙高市・糸魚川市	140	8	特養・病院・その他	ビハーラ会員
新潟	ビハーラ新潟	長岡市・新潟市	20	4	特養・病院	ビハーラ会員・寺族・仏教婦人会会員
富山	ビハーラ富山	教区内	134		特養・病院	ビハーラ会員・寺族
高岡	ビハーラ高岡	富山県呉西（高岡市他）	85	12	特養・病院	ビハーラ会員・仏教婦人会会員
	高岡教区布教団	富山県呉西（高岡市他）	93	14	特養	布教団員
石川	松岡寺仏婦ビハーラ	鳳珠郡能登町	15	1	特養	松岡寺仏教婦人会

	法栄寺子供ビハーラ	鳳珠郡能登町	10	1	特養	法栄寺子供会
	ビハーラ鹿島	鹿島郡中能登町	10	1	特養	鹿島組住職・坊守・門徒推進員
	ビハーラいしかわ	教区内	30	4	特養・その他	ビハーラ会員
福井	NPO 法人ビハーラ福井	福井市・大野市	51	7	特養・病院	ビハーラ会員
	ビハーラ若狭	美浜・若狭 ・小浜地域	53	8	特養	ビハーラ会員
岐阜	ビハーラぎふ	岐阜市	56	11	特養・病院	住職・坊守・門徒等
	ビハーラ郡上	郡上市内	65	3	特養・病院	住職・坊守・仏教女性会員・ 寺族女性会員・門徒等
東海	ビハーラ東海	四日市市	30	1	特養	住職・坊守・仏教婦人会会 員・門徒推進員
滋賀	ビハーラ“シガ”	長浜市	15	2	特養（長浜 荘）・病院	寺族婦人会会員・ビハーラ活動者
		彦根市	10	1	特養（アロフ ェンテ彦根）	寺族婦人会会員・仏教婦人会会員
		高島市	20	1	特養	寺族婦人会会員・仏教婦人会 会員・ビハーラ活動者
		大津市	5	2	特養	寺族婦人会会員・ビハーラ活動者
	野洲組門徒推進員	組内	3	1	特養	門徒推進員
京都	ビハーラ京都	京都市	12	1	特養（京都 厚生園）	ビハーラ会員・僧侶
		長岡京市	12	1	病院（済生会 京都府病院）	ビハーラ会員
		城陽市	20	1	特養（ビハー ラ本願寺）	ビハーラ会員・仏教婦人会会員
		与謝野町	5	1	寺院	住職・坊守・仏教婦人会会員等
大阪	ビハーラ大阪	教区内	43	5	特養・病院	ビハーラ会員
	安明寺仏教婦人会	柏原市・高石 市・枚方市等	15	4	特養・その他	安明寺仏教婦人会会員
	西光寺仏教婦人会	高石市	10	2	特養等	西光寺仏教婦人会会員
	NPO 法人リライフ	近畿圏	19	2	その他	住職・寺族・門信徒
奈良	ビハーラ奈良	橿原市	101	1	特養（かな はし苑）	ビハーラ会員・門徒・日校生・僧侶
		高取町	82	1	特養（光明園）	ビハーラ会員・地域協力者
		大淀町	130	1	特養 （美吉野園）	ビハーラ会員・住職・仏婦会 員・地域協力者（音楽療法 士・コーラスバンド・雅楽の 会・体操の会）

		宇陀市	98	1	特養（室生園）	ビハーラ会員・住職・地域協力者（コーラス・おもちゃ箱メンバー・三味線演者等）
		城陽市	45	1	特養（ビハーラ本願寺）	ビハーラ会員・地域協力者
		宇陀市	33	1	特養（やまびこホーム）	ビハーラ会員・仏教婦人会会員・住職・坊守
		山添村	45	1	特養（せせらぎ苑）	ビハーラ会員・日校生
和歌山	ビハーラ和歌山	有田市	10	1	特養（潮光園）	寺族婦人
兵庫	ビハーラとも	洲本市	30	2	特養・その他	淡路組浄光寺門信徒・市職員・地域住民
	北摂組	神戸市北区	25	1	特養	住職・仏教婦人会会員・門徒推進員
山陰	飯石南組仏婦・ビハーラ	島根県東部	6	2	特養	仏教婦人会会員
	大田組	島根県中央部	14	2	特養	僧侶
	宣教会（自治布教団）	大田市	40	3	特養	会員僧侶
	市山組	島根県中央部	5	1	特養	僧侶
	邑智西組	島根県中央部	21	2	特養・その他	僧侶
	邑智西組寺族会	島根県中央部	13	2	特養・その他	寺族
	邑智西組仏教婦人会連盟	島根県中央部	630	2	特養・その他	仏教婦人会会員（組内8単位）
	ビハーラ浜田	島根県西部	105	6	特養・病院	僧侶・坊守・門信徒
	ビハーラ鳥取	鳥取県中央部から東部	25	4	特養・病院・その他	ビハーラ会員・仏婦会員・寺族婦人・僧侶・門徒推進員・門信徒
	邑智東組	島根県中央部	16	2	特養	僧侶
四州	ビハーラ四国	教区内	32			ビハーラ会員
備後	広島・県北仏婦ビハーラ活動の会	三次市	243	1	病院（ビハーラ花の里病院）	仏教婦人会会員
	ビハーラ喜楽園	三次市	92	1	特養	仏教婦人会会員
	妙延寺仏婦ビハーラ部	庄原市	25	2	特養	仏教婦人会会員
	比婆組仏教婦人会ビハーラの会	庄原市	82	3	特養	仏教婦人会会員
	ビハーラ備後	三次市	14	1	病院（三次中央病院）	ボランティア女性部
	ビハーラ備後	三次市	15	1	病院（ビハーラ花の里病院）	ボランティア
	ビハーラぬまくま	福山市	12	2	特養	ビハーラ会員
	星の里ボランティア	尾道市	8	1	特養	ビハーラ会員
	新山荘ボランティア	福山市	9	1	特養	ビハーラ会員

	光寿園ボランティア	福山市	6	1	特養	ビハーラ会員
	あゆみ	府中市	13	7	特養	ボランティア会員
	ビハーラ備後（個人）	府中市	2	1	デイサービス （ひだまり）	ビハーラ会員
	備後教区門徒推進員連絡協議会	三次市	60	1	病院	門徒推進員・一般賛同者
安芸	ビハーラ安芸	広島市 ・安芸太田町	72	3	特養・病 院・その他	ビハーラ会員
	妙覚寺ビハーラの会	江田島市	30	3	特養・病院	妙覚寺寺族・門信徒
	ビハーラこころの部屋	広島市	21	1	病院	近隣寺院仏婦会員
	元浄寺仏教婦人会	東広島市	203	3	特養・病 院・その他	元浄寺仏婦会員
山口	ビハーラ山口		5	1	特養 （あそか苑）	住職・門徒推進員
	本生組施設法話会		8	2	特養等（あさざり の郷・松風荘）	住職
	玖珂西組ビハーラ		200	2	特養（玖珂 苑・高森苑）	住職・仏教婦人会会員
	いのちの法話会		1	1	病院（徳山 中央病院）	住職
	善教寺仏教婦人会		12	1	特養（錦苑）	住職・坊守・仏教婦人会会員
	聞法の会		25	1	特養（光葉苑）	連研修了者
	邦西組		140	1	その他（阿 鼓の郷）	ビハーラ部会等
	小月組		200	2	特養・その他 （きくがわ園・ はまゆう園）	住職・門徒・一般の人（サラ ナの会）・ビハーラ部会員・ 仏婦会員
	下関組		350	6	特養・病院	ビハーラ部会員・仏教婦人会会員
	豊浦組		550	4	特養・病院	ビハーラ部会員・若婦会員
北豊	ビハーラ豊築	築城町	20	4	特養	僧侶
	ビハーラ京仲	みやこ町	20	1	特養	僧侶・坊守・仏教婦人会会員
	ビハーラK I K U	北九州市	6	1	特養	僧侶
福岡	真宗福祉の会 （よりあい処「なのはな」）	飯塚市	23	15	その他（寺院）	仏教婦人会会員
	ビハーラライン福岡 （こころの電話）	教区内	54	1	その他（教 区教務所）	推進者
	本願寺点字ライブラリー・福岡	教区内	12	1	その他（教 区教務所）	主に寺族

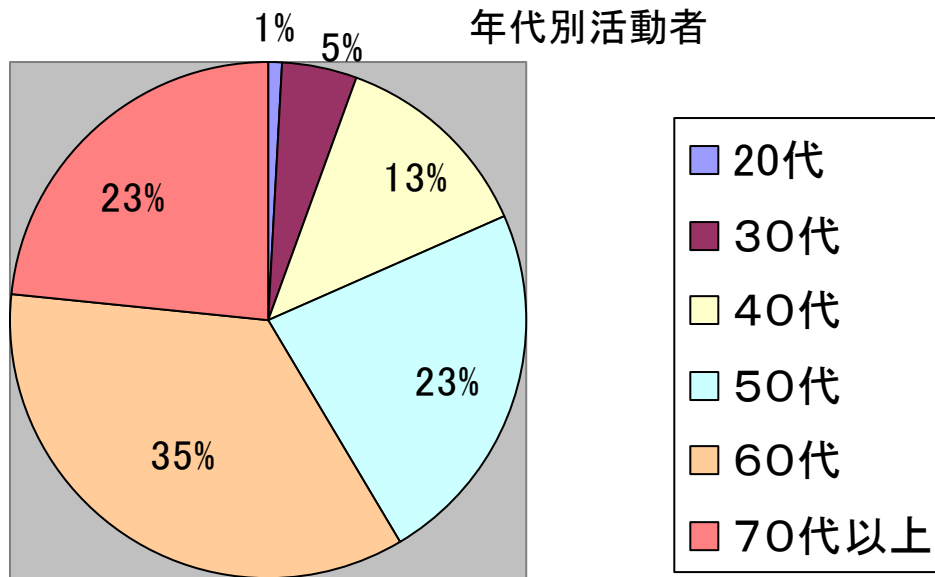
大分	ビハーラ大分	教区内	80			ビハーラ会員
	ビハーラ中津あみだ訪問	中津市	20	1	特養	住職・寺族・仏教婦人会会員
	別府ビハーラ	別府市	20	1	特養	住職・寺族・仏教婦人会会員
	速見組法中会	大分市	10	1	特養	住職・副住職
	大海組法中会	大分市	17	2	特養	住職・副住職
佐賀	ビハーラ佐賀	伊万里 ・有田	116	4	特養	仏婦会員・仏壮会員・住職・坊守・衆徒
		みやき町	16	1	特養	ビハーラ会員・仏婦会員・住職・坊守・衆徒
		川副町	10	1	特養	ビハーラ会員・仏婦会員・住職・坊守・衆徒
		佐賀市	21	1	特養	ビハーラ会員・住職・坊守・衆徒
		小城市	8	1	特養	ビハーラ会員
		佐賀市	16	1	特養	ビハーラ会員・仏婦会員・住職・坊守
	佐賀市	25	1	その他	ビハーラ会員・仏婦会員・住職・坊守・衆徒	
ビハーラ寿	基山町	18	1	特養	ビハーラ会員・住職・坊守・衆徒	
長崎	ビハーラ長崎	島原市	18	1	病院 (松岡病院)	ビハーラ会員
		平戸市	11	1	特養 (ひらどせと)	ビハーラ会員
熊本	ビハーラ熊本	教区内	85			ビハーラ会員
宮崎	ビハーラ宮崎	教区内	9			ビハーラ会員
鹿児島	ビハーラ鹿児島	鹿児島市	15	1	病院	ビハーラ会員・仏教婦人会会員
		鹿児島市	5	1	特養	ビハーラ会員
		大隈地方	20	1	特養	ビハーラ会員
	ビハーラ鹿児島 (電話相談室)	鹿児島市	12	1	その他 (鹿児島別院)	ビハーラ会員
	鹿児島別院西田出張所 仏教婦人会	鹿児島市	10	1	老健	ビハーラ会員・別院僧侶
	鹿児島別院川上出張所	鹿児島市	20	1	軽費老人	仏教婦人会会員
	法城寺仏教婦人会	さつま町	7	1	特養	仏教婦人会会員
活動者合計			6,440			

*なお、上記活動者一覧は、20年総括書作成にあたって教区内における活動者の人数や活動先を詳細に把握するため、2009（平成21）年度中に各教区並びに教区ビハーラ代表者を通じ行った第2回調査のデータを集計いたしました。

この後に列記する各教区内の活動者の詳細については、第1回調査のデータをもとに集計いたしておりますので、総人数については直接連動するものではありません。

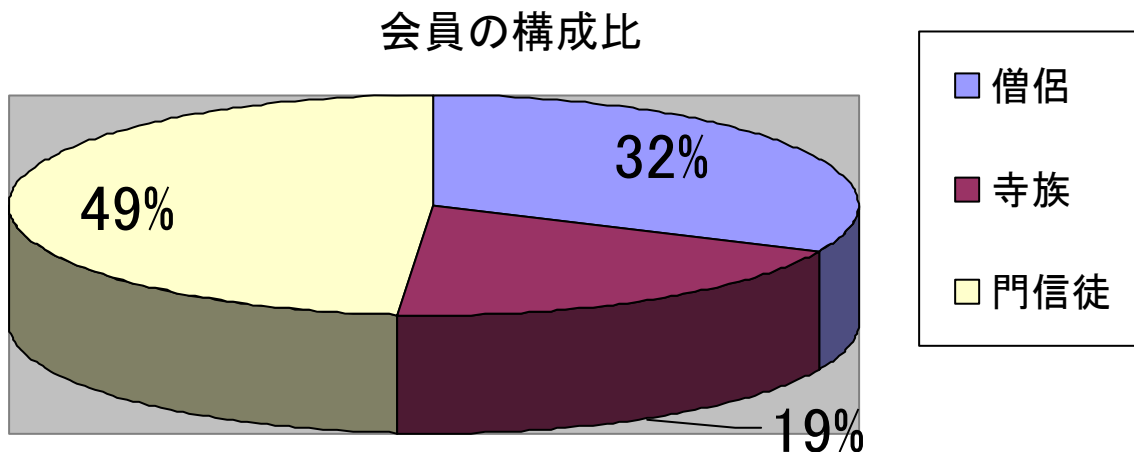
(4) 教区ビハーラ活動者の現状

教区ビハーラ活動の世代別に活動者を見ますと、20代以下がなく、20代で11名、30代で71名、40代以上で185名、50代で338名、60代で514名、70歳以上が338名でした。このように各年代の人たちが活動しておられます。これは、ビハーラ活動養成研修の修了平均年齢が46.1歳と関係し、いきおい40代以下の活動者が少ない現況を生み出しています。



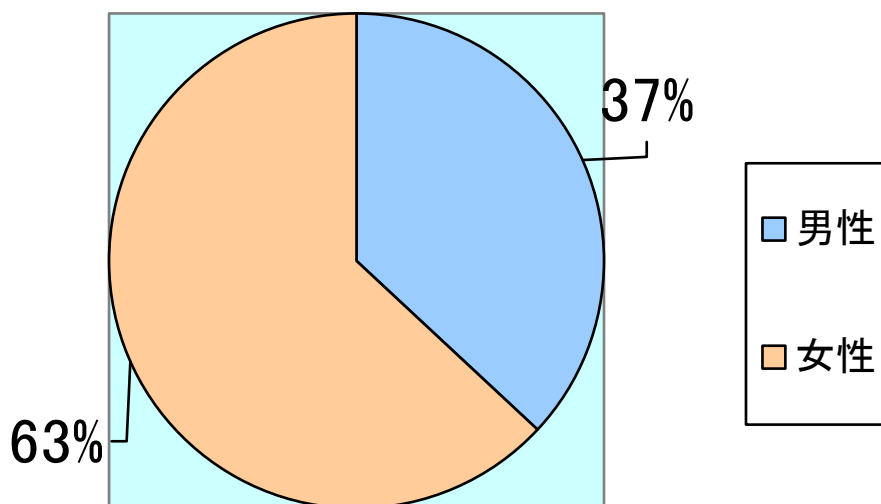
僧侶・寺族・門信徒の比率を見ますと、養成研修会修了者で見ると第1期から第5期までは、僧侶が70%をこえていました。逆に、門信徒が20%台から30%前後に上がったのは第8期以後のことです。おそらく門徒推進員の活動にビハーラ活動を進めたり、実践に出た住職や寺族から強力に進められた結果と考えられます。

ビハーラ会員の構成では、門信徒が986名（49%）、僧侶が608名（32%）、寺族が391名（19%）となっております。



男女比では、男性 755 名（37%）女性 1,295 名（63%）となっています（記載のなかった長野教区、四州教区を除く）。際立って男性の多いのは北豊教区（男性 22 名、女性 4 名）、大分教区（男性 88 名、女性 30 名）、長崎教区（男性 25 名、女性 4 名）でした女性のきわめて多いのは石川教区（男性 7 名、女性 32 名）、岐阜教区（男性 8 名、女性 42 名）、滋賀教区（男性 16 名、女性 71 名）など男性の 4 倍を超えています。これらは、推進する中心的役割、必要なビハーラ活動の内容などの諸要因が考えられます。

会員男女比



教区の運営組織にかかわっている人数は総計 482 名で、1 教区の平均は 15 名ですが、教区別に大きな違いがあります。沖縄県宗務特別区の 1 名は別にしても、石川教区・四州教区の 3 名というのがあります。その一方で、東北教区、東海教区、長崎教区、宮崎教区のように会員全員が運営となっており、特別の組織をもたないでビハーラ活動の組織的運営しているという教区報告もあります。

教区内の組織形態を見ますと、「基幹運動推進委員会の活動としている」10 教区、「社会福祉推進協議会支部の活動としている」6 教区、教区の仏教婦人会と同じように「所属団体として活動している」14 教区、でした。「独自の活動としている」は、国府教区・佐賀教区・沖縄県宗務特別区の 3 教区でした。富山教区では「基幹運動推進委員会に含まれる」てしかも「独自の活動」をしており、奈良教区では「基幹運動推進委員会に含まれる」「社会福祉推進協議会に含まれる」という形態で、山口教区と福岡教区は「社会福祉推進協議会に含まれる」が「教区の所属団体」でもある、という形となっています。

教区ビハーラでコーディネーター役は 18 教区、43 名が、その役割を担っています。そのコーディネーター的役割の人数は、1 名が 6 教区、2 名が 7 教区、3 名が 2 教区ですが、多いのは高岡教区 4 名、福岡教区 5 名、熊本教区 8 名と、ビハーラ活動場所が多いところに目立っています。なお、11 教区では、その役割を担っている人がいません。

「だれが担っているか」の問いには、その内訳は教区ビハーラ代表者が 8 教区、その他の役職者が 5 教区、教区事務担当者 6 教区、教区ビハーラ代表 11 名となっています。そのうち 10 教区では、教区ビハーラ代表、教区事務担当、その他の役職者のいずれかとも兼

ねておられる状況です。

門徒推進のビハーラ会員となっている人数は、23 教区で 179 名です。教区別で見ると次のようになっています。

(5) 教区別ビハーラ会員となっている門徒推進員数

東京	長野	国府	新潟	富山	高岡	石川	福井	岐阜	東海
1	35	5	2	3	10	9	1	3	6

滋賀	京都	奈良	大阪	和歌山	兵庫	山陰	備後	安芸	山口
8	5	5	4	2	13	6	11	1	24

北豊	福岡	長崎	熊本	宮崎	鹿児島	沖縄
0	有	1	11	0	0	0

(註) 北海道・東北・四州・佐賀は記載なし

ビハーラ活動者に門徒推進員がいるかについては、「いない」4 教区、「いる」19 教区です。「いる」教区では、1 名から 35 名までばらつきがありました。23 教区の教区ビハーラ会員数 977 名のうち、5.4%にあたる 179 名です。

他宗教や特定非営利活動法人（NPO 法人）との交流があるかどうかについて、6 教区 10 団体と交流があるという回答でした。

ビハーラの交流団体

- ①NPO 法人人権センター（長野教区）
- ②NPO 法人麦っ子広場（長野教区）
- ③全日本盲導犬使用者の会（長野教区）
- ④真宗ビハーラの会石川
- ⑤がんの子供を守る会福井県支部
- ⑥福井生と死を考える会
- ⑦福岡ホスピスの会（福岡教区）
- ⑧熊本生と死を考える会
- ⑨鹿児島緩和ケアネットワーク
- ⑩鹿児島いのちの電話

以上の 10 団体です。しかし、かつて交流のあった団体が報告されていません。たとえば、東京ホスピスの会、新潟仏教者ビハーラの会、富山ターミナルケア懇話会などです。交流解消なのか、消滅したのかは判明しません。

(6) ビハーラ電話相談

電話相談については、4 教区でしています。いずれも回数や曜日の頻度が高いことですが、継続の困難を克服して続行されています。ビハーラ熊本の場合、むしろビハーラの事務局長と副代表の個人的働きで、それぞれ活動しているということです。

教区名	回数	時間	スタッフ	備考
東京ビハーラ	年間 230 回 (月・水・金)	14 時～16 時	21 名	築地本願寺内事務所で実施
ビハーラ熊本	月 2 回		1 名	熊本こころの電話個人活動
	毎週 木・金	13 時～18 時	1 名	おおづ子どもサポネット (個人活動)
ビハーラ福岡	年間 40 回		10 名	他の団体に入会して実施
ビハーラ鹿児島	年間約 52 回 毎週 金	14 時～16 時	12 名	

(7) 通信誌・会報発行

出版関係については会報誌を出している教区は、14 教区です。通信誌を出しているのが 6 教区で、会報は 7 教区です。北海道教区は、機関誌の発行を予定しています。

リーフレットを発行しているのは、東京ビハーラとビハーラ鹿児島です。熊本教区では、「きつかときにやゆうてみなっせ」を発行しています。

教区	東京		長野	新潟	富山	高岡	石川	奈良
種類	通信	会報	会報	会報	通信	会報	会報	通信
年回数	12	1	3	1	2	随時	1	2

教区	大阪	兵庫	山口	北豊	大分	熊本	鹿児島
種類	通信	通信	会報	会報	通信	機関誌	通信
年回数	1	2	1	2	2	随時	1～4

ホームページは 4 教区で開設（教区ホームページ内設置を含む）しており、現在中断・リニューアル中が別に 2 教区あります。

ホームページ開設教区ビハーラ

- ①東京ビハーラ
- ②ビハーラ長野
- ③ビハーラ兵庫
- ④ビハーラ熊本

中断・リニューアル中の教区ビハーラ

- ①ビハーラ国府
- ②ビハーラ“シガ”

次に、教区ビハーラの研修と活動は、どのようになっているでしょうか。

(8) 教区ビハーラの会議・研修・講座

教区ビハーラ	会 合 名	年間回数
北海道ビハーラの会	ビハーラ連続講座	3
	ビハーラ研修会	2
	理事会・評議員会・協議会	1～3
ビハーラ東北	役員会	1
東京ビハーラ	がん患者家族語らいの会	12
	仏教カウンセリング	12
	ケア研究会	12
	総会	1
	旅行会	1
	反省会	1
ビハーラ長野	死に／を学ぶ会	4
	ビハーラ連研	4
	ビハーラ講座	1
	定例世話人会	12
ビハーラ国府	公開講座	2
	研修協議会	1
ビハーラ新潟	協議会	1
	公開講座	1
ビハーラ富山	ビハーラ研修会	1
	ビハーラ協議会	1
	公開講座	1
ビハーラ高岡	ビハーラ研修会	1
	ビハーラ協議会	1
ビハーラいしかわ	文化講演会	1
	真宗ビハーラの会	10

ビハーラ福井	ビハーラ研修会	5
	ビハーラ協議会	1
ビハーラ岐阜	公開講座	2
	協議会	1
	研修会	随時
ビハーラ東海	公開講座	1
	一日研修会	1
	施設との協議会	1
ビハーラ“シガ”	公開講座	1
	ビハーラ研修会	1
	ビハーラ地区別研修会	数回
ビハーラ京都	ビハーラ公開講座	1
	傾聴ボランティア勉強会	1
	ビハーラサロン	4
ビハーラ奈良	ビハーラルーム学習会	8
	ビハーラセミナー	1
	学習会	2
ビハーラ大阪	ビハーラ講座	2
	ビハーラ研修会	1
	ビハーラ協議会	2
ビハーラ和歌山	ビハーラ講座	2
	ビハーラ研修会	1
	ビハーラ協議会	2
ビハーラ兵庫	ビハーラ兵庫役員会	5
	総会	1
	定例研修会	1
	一泊研修会	1
	社推協合同研修会	1
ビハーラ山陰	連絡協議会	1
	ビハーラ山陰研修協議会	1
ビハーラ四州	ビハーラ社会福祉専門委員会	1
ビハーラ備後	ビハーラ研修協議会	2
	「グリーンケア」を考える会	1
	公開講座	1
ビハーラ安芸	いのちを見つめる研修会	10
	活動者養成研修会	3
	ビハーラ協議会	1

ビハーラ山口	総会・研修講演会	1
	ビハーラ研修会	1
ビハーラ北豊	総会・研修会	2
	協議会	1
	公開講座	1
ビハーラ福岡	ビハーラ活動研修会	10
	ビハーラ協議会	1
	ビハーラ講座	1
	がん患者・家族語らいのつどい	1
	ビハーラカウンセリング研修	1回 (1泊)
	寺院におけるグリーフケア	12
ビハーラ大分	協議会	1
	公開講座	1
	傾聴ボランティア養成講座	3
	心で受ける医療公開講座	3~4
	臨床スピリチュアルケア研修会	12
ビハーラ佐賀	記載なし	
ビハーラ長崎	記載なし	
ビハーラ熊本	研修会	2
	協議会	1
	講演会	隔年
	例会 (第2週)	毎月
	実技講習会	随時
ビハーラ宮崎	ビハーラ連続講座	4
ビハーラ鹿児島	ビハーラ公開講座	3
	ビハーラ協議会	1
ビハーラ沖縄	記載なし	

ほとんどの教区では協議会、研修会、学習会、公開講座、講演会などをされています。連続講座タイプも多くなりつつあります。たとえば、宮崎教区の年間4回の組巡回のビハーラ連続講座、鹿児島教区の年間3回のビハーラ公開講座があります。奈良教区では名称を考えて「ビハーラルーム学習」8回、「ビハーラセミナー」1回などが開かれています。福岡教区では多彩な研修をされています。「ビハーラ講座」1回、「ビハーラ活動研修会」10回、「がん患者語らいの集い」「ビハーラカウンセリング一泊研修」「寺におけるグリーフケア」10回などです。

特別なビハーラ活動としては、例として震災などと掲げたためか、阪神淡路大震災と中越地震を挙げた教区が17教区もありました。しかし、教区ビハーラでは工夫して特筆すべき活動を記載されていました。

(9) 特別なビハーラ活動

教区ビハーラ	主な活動	詳細
東京ビハーラ	宿泊所提供	小児患者・家族の宿泊所提供
ビハーラ長野	災害ボランティア活動	
ビハーラ国府	災害ボランティア	各地震・水害時の災害ボランティア参加
ビハーラ新潟	災害ボランティア	中越沖地震（炊き出し）
ビハーラ高岡	災害ボランティア	阪神淡路大震災 （炊き出し・各種ボランティア）
ビハーラいしかわ	災害ボランティア	阪神淡路大震災 能登半島地震 中越沖地震 （各種ボランティア）
ビハーラ福井	サロンの開催	ビハーラサロンの開催（10～13）
	院内学級への派遣	福井大附属病院の院内学級へクリニックラウンを派遣
ビハーラ岐阜	災害ボランティア	阪神淡路大震災 中越地震 （避難所・仮設住宅に訪問しカウンセリング実施・物資現地届）
ビハーラ東海	災害ボランティア	阪神淡路大震災 （仮設住宅訪問活動・3年間毎月1回）
ビハーラ“シガ”	災害ボランティア	阪神淡路大震災 （炊き出し・仮設住宅訪問・救援物資の募集・配送・募金活動） 新潟沖地震 能登半島地震 （募金活動）
ビハーラ奈良	災害ボランティア	中越地震 （義援金・救援物資 5,000 点以上・切餅 150 人分・ケアセンター「さくら」で傾聴活動）
ビハーラ大阪	災害ボランティア	阪神淡路大震災 （寿光寺を拠点にニーズの集約及び情報提供・炊き出し）

ビハーラ和歌山	災害ボランティア	各種ボランティア
ビハーラ兵庫	災害ボランティア	阪神淡路大震災 台風 23 号水害 (ボランティアの受け入れ・見舞タオル配布)
ビハーラ山陰	災害ボランティア	阪神淡路大震災 (災救援調査 2 回・仮設住宅訪問及び法要 6 回) 芸予地震・集中豪雨 (見舞金)
ビハーラ安芸	災害ボランティア	阪神淡路大震災 (米などの救援物資・仮設住宅での傾聴活動)
	おもちゃサロン	子供たちの見守り活動
ビハーラ北豊	災害ボランティア	阪神淡路大震災 (拠点設置及び生活用品調達や地域活動家との提携・居室訪問等)
ビハーラ福岡	災害ボランティア	阪神淡路大震災 (傾聴活動・災害募金活動)
ビハーラ大分	傾聴ボランティア活動	修了者の居室訪問ボランティア活動
	臨床スピリチュアル研修	チャップレンとパストラルカウンセラー講師を招いて研修
ビハーラ佐賀	災害ボランティア	阪神淡路大震災 中越地震 (傾聴ボランティア等)
	講演会の企画・実施	柄澤啓作さん講演会等
ビハーラ宮崎	連続講座	11 年を迎えた連続講座 (年 4~5 回)
	各組啓発	平成 18 年から組巡回講座として各組で活動を啓発
ビハーラ鹿児島	ビハーラ絵だより	絵だよりによる訪問・声かけ
	仏教婦人会との連携	施設と仏婦とをコーディネート 仏婦活動への助成金
ビハーラ沖縄	災害ボランティア	中越地震 (バザーの売上金送金)

ビハーラ山陰は地域性から、どうしても個々の活動に重点がおかれるといわれます。施設法話会はもちろんのこと、配食ボランティアをとおしての「いのちを語ろう会」、在宅訪問による傾聴活動を挙げられています。ビハーラ鹿児島は「ビハーラ絵だより」を活用して訪問や声かけ活動をされています。特に力を入れているのは、教区仏教婦人会連盟との連携で、施設と仏教婦人会単位会をつなぐコーディネートをしたり、ビハーラ会計より助成金を支出して支援していると報告されています。ビハーラ沖縄では、独居老人への定期・不定期訪問、病院訪問、月例法座の送迎、「こころのお見舞い」や本願寺新報の贈呈、季節のお弁当配布などきめ細かく対応されています。

4. ビハーラ活動者の養成・育成の現状

(1) ビハーラ実践活動養成の現状

ビハーラ活動推進委員会では活動者の養成研修について、より詳細に養成研修専門部会で検討作業を進めてきました。最初、1986（昭和 61）年に当時の「ビハーラ活動研究会」において＜会員養成の実施要項＞を作り、基本学習のカリキュラムと実践学習の重点目標が定められました。おりしも 2 年間の養成休止期間があり、その間に論議を尽くして新しくカリキュラムを提案することができました。

養成目標をこれまでの会員養成から＜ビハーラ活動を主体的に実践できるよう養成する＞とし、基本学習を 86 時間としました。実践学習も 8 項目を 4 回で習得するようにしました。

しかしここでさらに問題が浮上したので、さらに検討をくわえ相応の変更をして新たな「新カリキュラム」を出すことになりました。

作成された「ビハーラ活動養成研修カリキュラム」は、教科名・目的・内容時間数までが記載された相当詳細にわたるものでした。これまでの 86 時間は全国から参集する限界を超えていて無理とわかり、全時間数を 80 時間に改められました。

大きくは 4 分野の習得をねらい、「ビハーラ活動基本視点の分野」「ビハーラ活動の対象者理解分野」「関連領域の基礎知識の分野」「ビハーラ活動の実技・演習の分野」で、最後に「研修総括」というカリキュラムでした。

基本視点としての教義理解を一層深め、社会性を欠いた法義の受けとめ方を改めることにしました。なかでも、ケア能力を高めることは大切であっても、基本介護技術の習得に関しては身体介護ができない状況から介護実習の講義削除の強い要望、カウンセリングの習得を一層徹底していくことなどでありました。

2005（平成 17）年度に募集をいったん休止して、カリキュラムの見直しを図りました。そして教区ビハーラ代表者会に諮り、養成研修専門部会の 5 回の会合で具体案を作成し、ビハーラ活動推進委員会で決められました。2006（平成 18）年度からは新カリキュラムのもと 1 年間の習得に短縮し、総時間数 74 時間で、基本学習会 4 回（2 泊 3 日）実習 2 回（1 泊 2 日）と改めました。

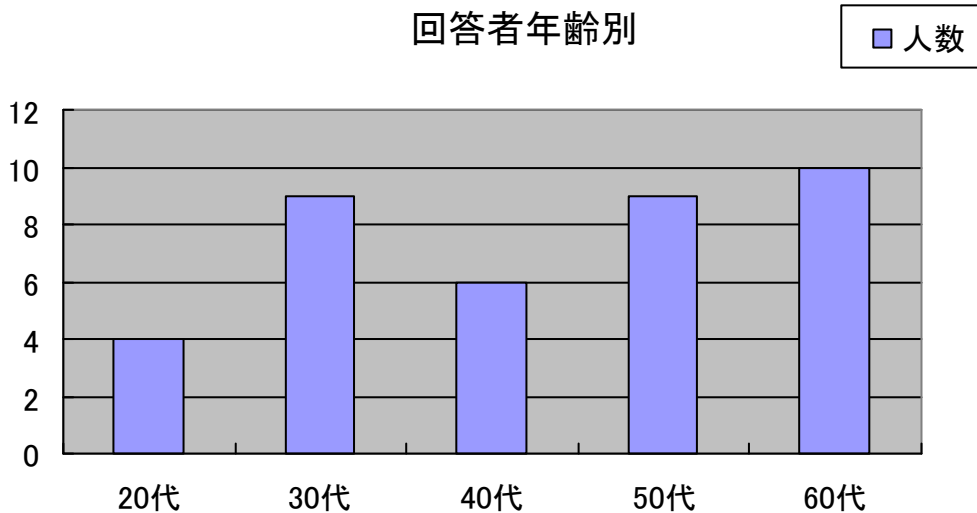
そして「新カリキュラム」は、基本学習会として、「真宗とビハーラ」4 教科（16 時間）、「福

社とビハーラ」5 教科（18 時間）、「医療とビハーラ」8 教科（19 時間）、「カウンセリングとビハーラ」3 教科（18 時間）そして、「研修総括」（3 時間）となっているのが、現行のものです。

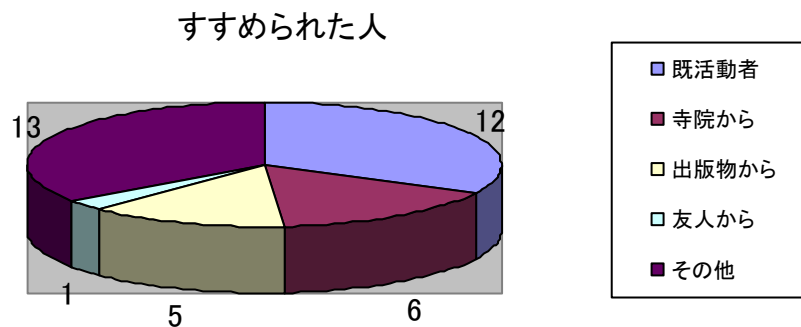
(2) 第 19 期ビハーラ活動者養成研修の調査結果

それでは、その現行カリキュラムを受けた第 19 期ビハーラ活動養成研修生を対象に「アンケート調査」を実施しましたので、これをもとに様々な事柄を浮き彫りにしたいと思います。

回答者の構成は、僧侶 19 名、門徒 11 名、寺族 4 名（ほか未記入 4 名）です。



この養成研修を受けたのはだれからすすめられたのか、寺院の関係者をとおして受けたのか、すでに活動しておられる人からか、興味のあるところですか。その結果は、下の通りでした。「ビハーラ活動している人から」が 12 名と、すすめられた人の中では一番多いです。その他が多かったので、内訳を紹介すると、母から 2 名、自発的 2 名、父から、死を前にして、専従職員から、家族から、施設長から、夫から、教務所長から、が各 1 名ずつという個別な理由でした。

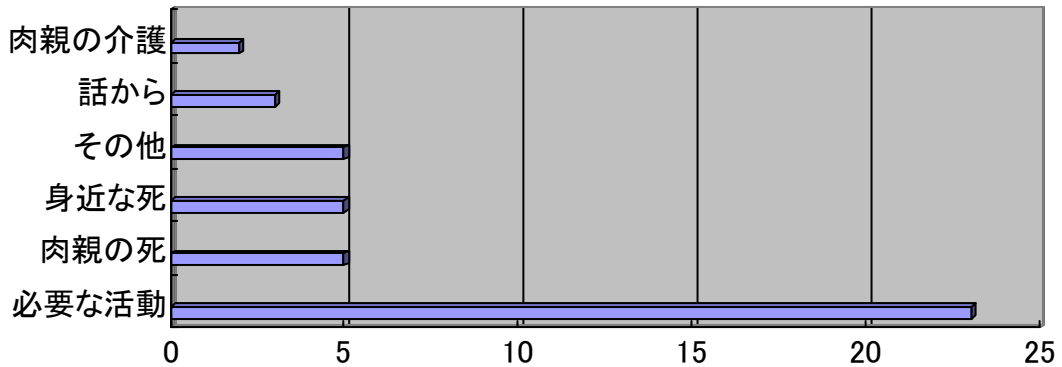


それでは研修動機は、何であったのでしょうか。10 年前の調査では、圧倒的に身内の人の死や介護でした。「これから必要な活動と思ったから」が、特に多いのはこれまで見なか

った傾向です。この傾向がどのように推移していくか、興味あるところです。この傾向は、ビハーラ活動の目的をいっそう宣布することが大切になることを示しています。

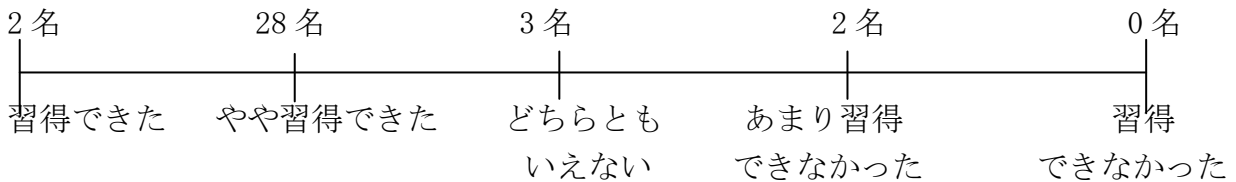
なお、その他は、介護、命令、紹介、わからないことが多かった、といった回答でした。

研修の動機



続いて、「研修カリキュラム」の習熟度あるいは理解度はどのようであったでしょうか。学習実習を終えた直後の問いですから、かなり正確に答えることができたのではないかと思います。それぞれ分野別にしかもその教科名も記してアンケートに答えるという形でした。しかも視覚的に、尺度法（スケール）で記すというものです。

ビハーラ活動の基本的視点に関して



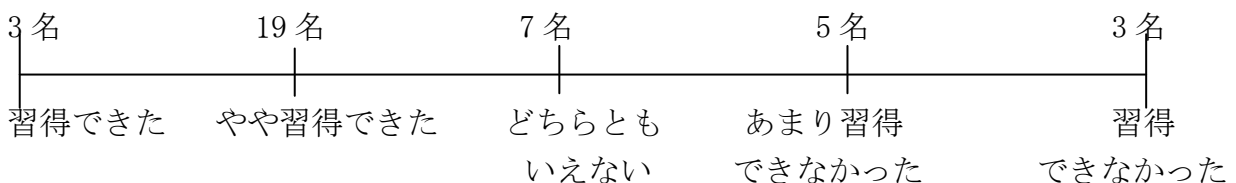
○特に習得できた教科名

カウンセリング 15名 宗門における運動の理解 14名 真宗教義 7名
 仏教福祉と援助技術 5名 生老病死の社会心理 4名

○特に習得できなかった教科名

生老病死の社会心理 11名 仏教福祉と援助技術 8名 真宗教義 5名
 カウンセリング 4名 宗門における運動の理解 2名

ビハーラ活動の対象者理解に関して



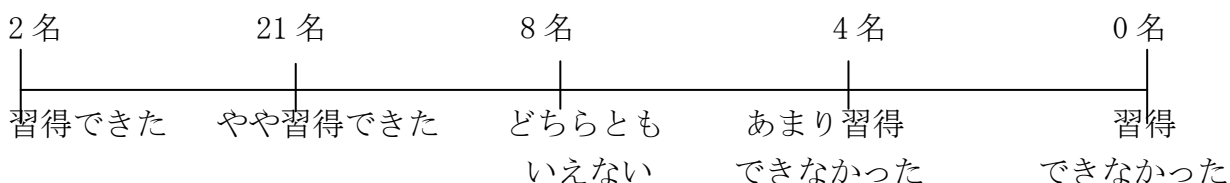
○特に習得できた教科名

カウンセリングの基本的理解 15名 患者・高齢者・障害者の心理と家族理解 5名
法話の基本 5名

○特に習得できた教科名

法話の基本 15名 患者・高齢者・障害者の心理と家族理解 7名
カウンセリングの基本的理解 2名

関連領域の基礎知識に関して



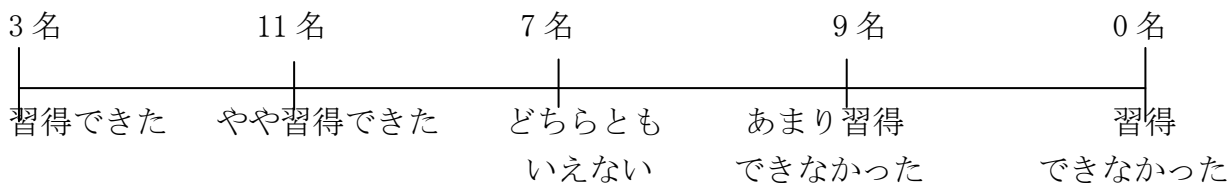
○特に習得できた教科名

介護の基礎知識 11名 医療の基礎知識 5名 老人福祉（在宅福祉） 5名
医療と保健と福祉の法律 4名 障害者福祉の基礎知識 4名
ホームヘルプサービスの基礎知識 4名

○特に習得できた教科名

医療の基礎知識 8名 医療と保健と福祉の法律 6名 障害者福祉の基礎知識 6名
ホームヘルプサービスの基礎知識 4名 老人福祉（在宅福祉）の基礎知識 3名
介護の基礎知識 2名

〈ビハーラ活動の実技と演習の分野〉



○特に習得できた教科名

ビハーラ活動の理解と実践 13名 実習オリエンテーション 8名
レクリエーション実技 7名 カウンセリング実習 6名 基本介護技術 3名

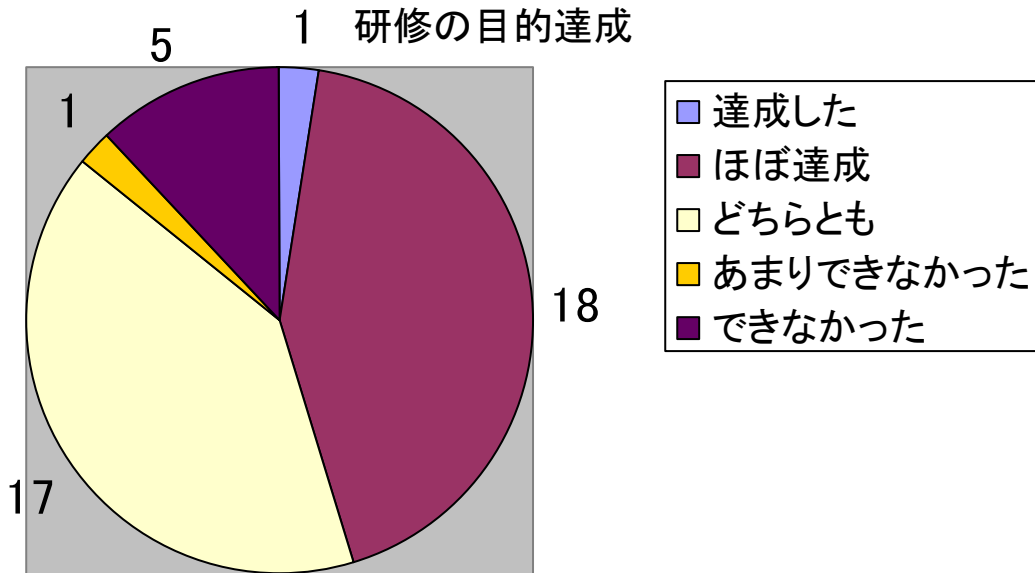
○特に習得できた教科名

基本介護技術 21名 カウンセリング実習 19名 ビハーラ活動の理解と実践 5名
レクリエーション実技 5名 実習オリエンテーション 1名

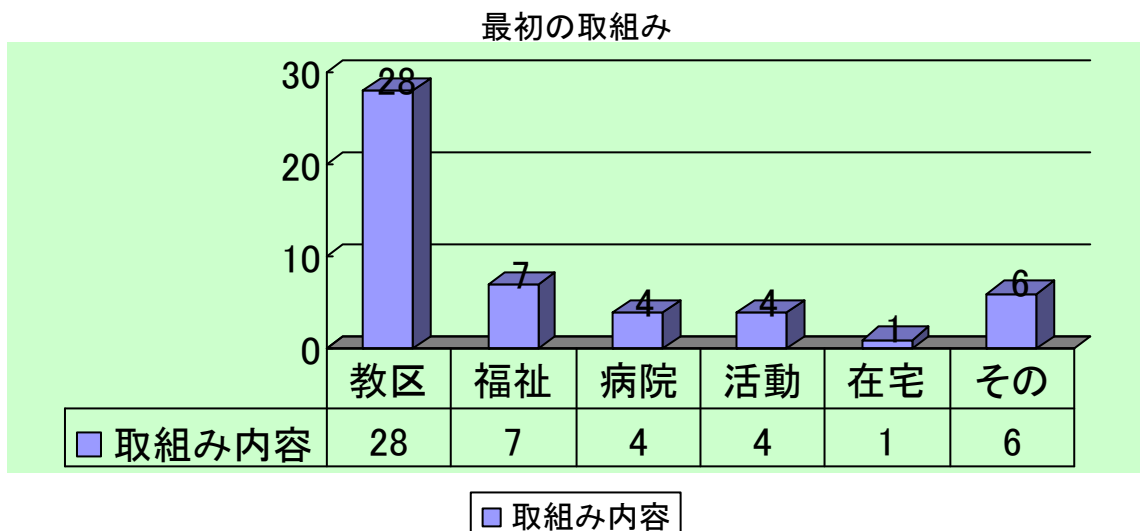
研修カリキュラムに対しその達成度や習熟度などを調査しましたが、「とくに習得した」内容について2・3教科をあげている人も2名ないし4名おり、4・5教科あげている人も1名または2名いて、きわめて個性的なことがらでありました。しかし、この習熟度や達成度はあくまで自己評価であり、これが他者評価や第三者評価の場合とはちがって高くなることは明らかです。

それでは、この「ビハーラ活動者養成研修」を受けて当初の目的を達成したと思っているかについて、「あなたはこの研修で自分の研修に期待した目的を達成したと思いますか」と、設問しました。

その結果、「ほぼ達成したと思う」18名でしたが、「どちらともいえない」17名と多かったことが目立ちます。特定教科にははっきりした結論を示すことができますが、研修全体の目的達成は評価しにくいということでしょう。



第19期のビハーラ活動者養成研修を受けた人たちは、まず何から始めようとしているのでしょうか。また、どのような活動に取り組もうとしているのでしょうか。2項目を選んだ人が10名、3項目選んだ人が2名ありました。右の表でわかるように、「教区のビハーラ活動に加わる」28名、「福祉施設・病院の実践活動場所をさがす」11名などです。この実践活動場所をさがしている人たちの教区ビハーラが協力しあって支援することが大切なこととなります。下表の「活動」との表示は「ともに活動する人を募る」という意味です。「その他」をあげた人の中には、「活動を継続する」「今いる施設で実践する」「今の職業で活かす」といったもので、ほとんどすでにその職場にいるとか、すでにビハーラ活動をしている人です。



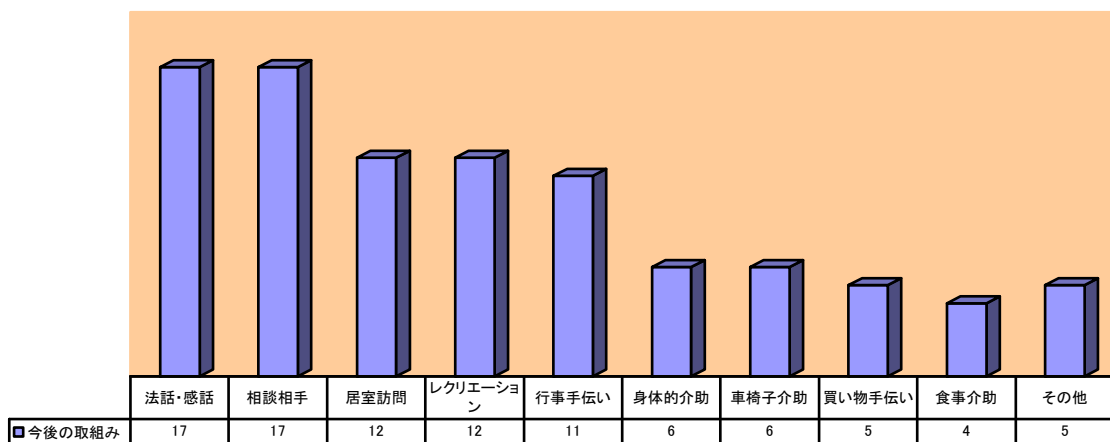
この人たちは「どのような活動に取り組む」姿勢をもっているのでしょうか。特に、いくつかの選択をする人がきわめて多く、意欲をくみ取ることができます。

2 択 12 名、3 択 5 名、4 択 4 名、5 択から 9 択までの人が各 1 名ずつありました。

第 19 期を受けた人たちは、これからの実践で取り組みたいこととして、相談相手・法話・居室訪問・レクリエーション・行事手伝い等を挙げています。

研修を終えて今感じていることは何でしょうか。全体的に「得るものがあった」「何をすべきかわかった」「なぜビハーラなのかが見えてきた」「ビハーラ活動はほんとうに必要だと思った」「私にでもできることがある」「自分のできるところから始めたい」「問題意識が強くなった」「研修で実践のヒントを得た」と、研修成果を語る人が多くありました。しかし、「積極性のない人間には厳しい」という一感想もありました。

今後の活動取組み



研修を終えたいま、今後さらに研修を受けたいという希望も多くあります。「学びの継続をしたい」「修了者に活動専門分野の研修を望む」「より詳細な研修とトレーニングをしてほしい」「実践段階に分けた取り組み方法を学びたい」「習得できない部分の再度講義をしてほしい」などの感想から伺えます。これは中央で考え、また教区で考え、さらに企画し研修していくことが欠かせません。

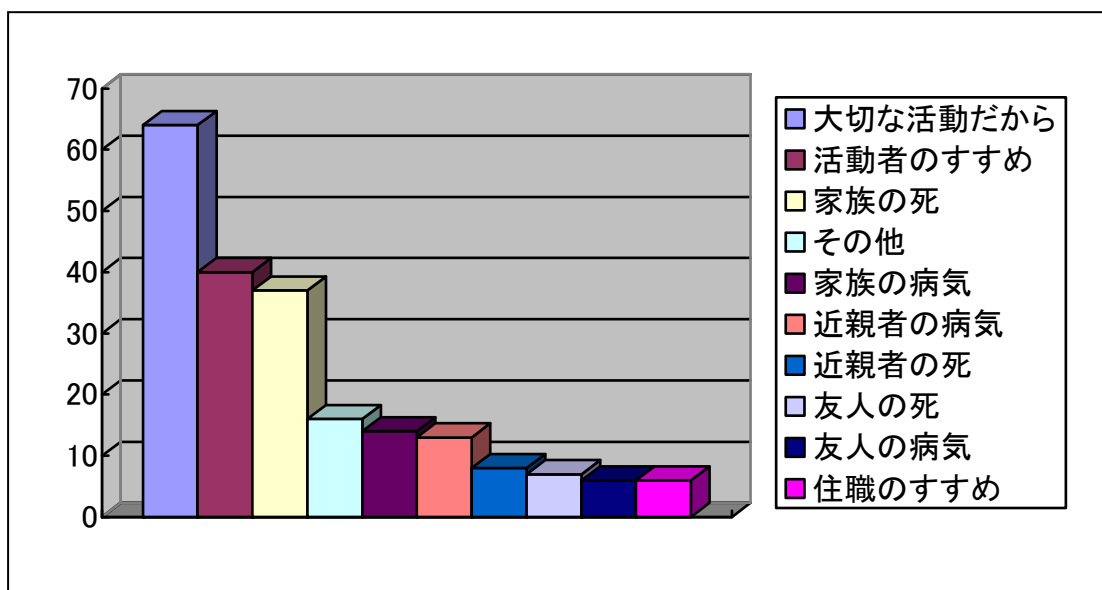
研修中には、「講義に納得」とか「先生方の熱い実践への思いに感動した」という感想もありました。「いままでの配慮不足」に気づき、「もっと多くの人を受けてほしい」と望む声もありました。「傾聴を実践で深めたい」という感想のように、これからビハーラ現場で活動する人ばかりですから、熱い思いが冷めることのないようにまわりが支援しながら、ともに活動を進めたいことです。まだ「新カリキュラム」による成否は、経過年数も少なく、またアンケートによる調査数も少ない中で、早急に出せる状況にはありません。

各教区ビハーラで、新しい活動者たちに対するアフターケアの研修に近い内容をもっているところがあるでしょうか。強いて取り上げれば、ビハーラ奈良の「ビハーラルーム学習会」(年間 8 回)、ビハーラ安芸の「いのちを見つめる研修会」(年間 10 回)、ビハーラ福岡の「ビハーラ活動研修会」(年間 10 回)と「寺院におけるグリーンケア」(年間 12 回)などあります。しかし、多くの教区が広範囲であること、実践活動に追われているので、研修の充実ができないという実態があります。

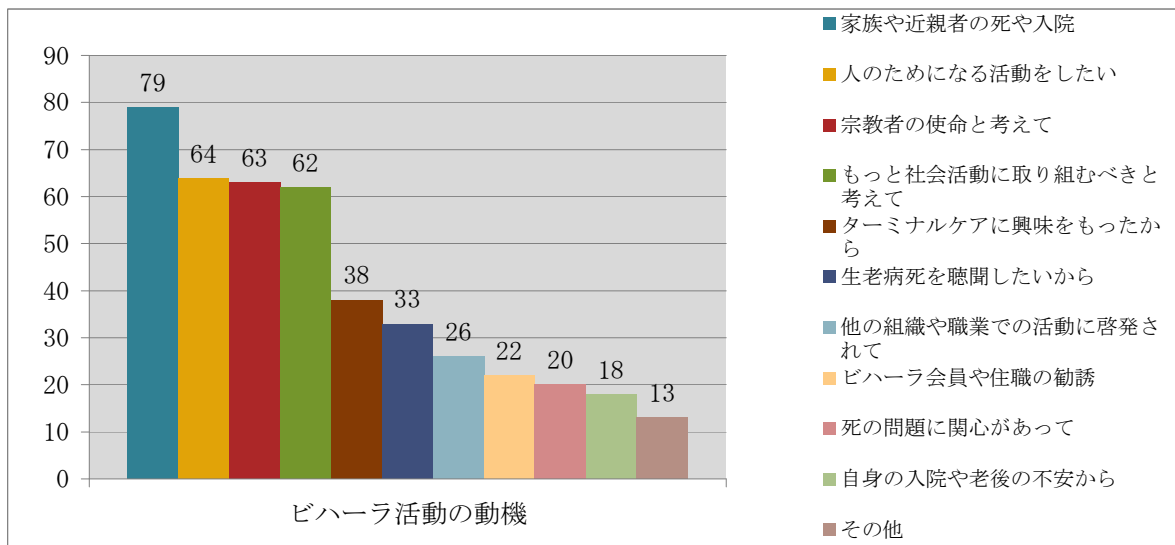
(3) ビハーラ活動の現状と会員の活動

現在のビハーラ会員は、どのような動機づけによって実践活動をされているのでしょうか。動機はきわめてその後の活動姿勢を生み出す大切な要件だからです。10年前の調査では、圧倒的に「家族の死」「近親者の死」でしたが、今回は「いまの時代に大切な活動だから」と、ビハーラ活動の意義を認識自覚した動機になっています。もちろん複数回答の選択でしたから、死や病気といった動機が第一に、次いで「大切な活動」「ビハーラ活動者のすすめ」を第二に選んだとも考えられます。

実践の動機

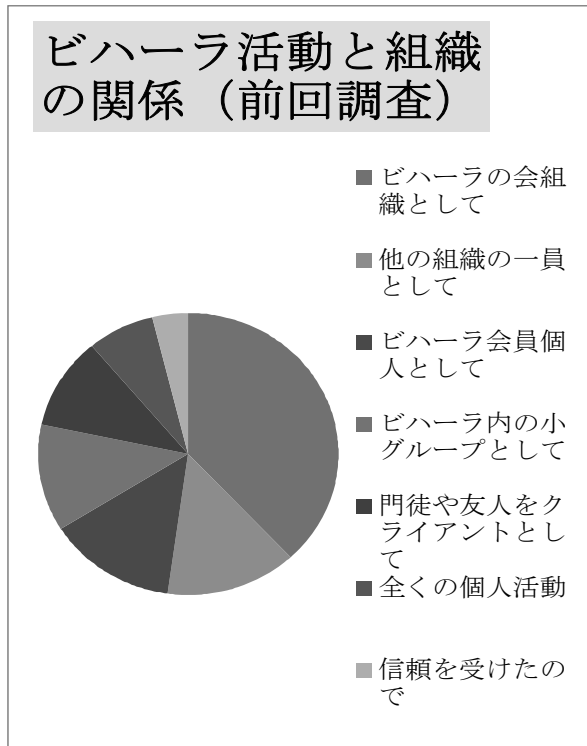


今回の調査と前回調査との間には、設問に対する選択項目の内容が異なるため単純比較はできませんが、次のようになっています。「死や病気の機縁」で関わる人が最も多く、次に「ビハーラ活動の意義」を認めて「社会的な使命感」をもったことが動機となっている点では、同じ傾向でした。

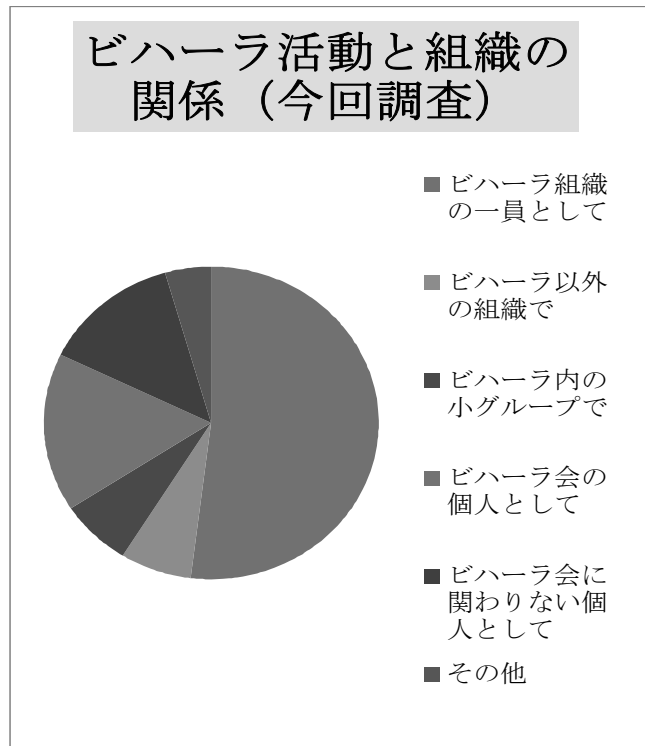


(1996年2月「第4回ビハーラ活動全国集会」(安芸教区実施の事前調査))

このような動機をもってビハーラ活動に関わった人たちは、ビハーラ組織と関わって活動しているか、または関わらないで活動しているのでしょうか。前回調査と今回調査を円グラフにしてみました。



(1996年2月「第4回全国集会」事前調査)



(2009年1月「第13回全国集会」)

明らかに今回の調査で、ビハーラ組織の一員として活動している人の率が多くなっています。ビハーラ内の小グループでも増えていますから、ビハーラ組織の方で受け入れ態勢があることや働きかけがあるためと考えられます。

それではビハーラ活動をどのような場所で、どのような活動をしているか、アンケートにしました。

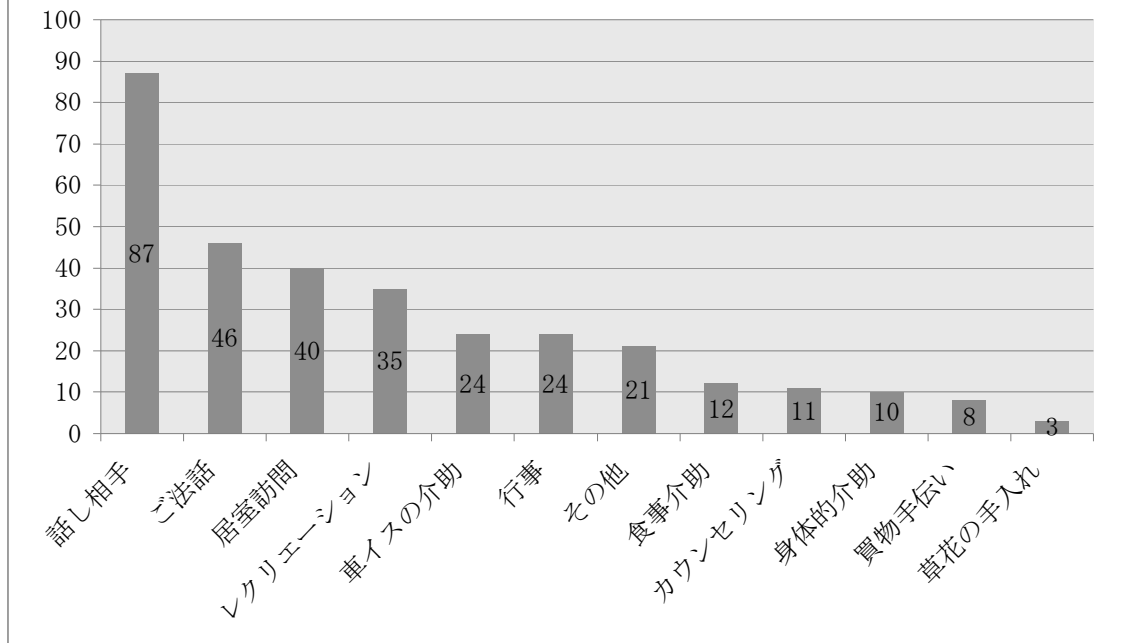
その結果、1. 高齢者施設	93名
2. 寺院	44名
3. 病院	30名
4. 在宅	18名
5. その他	19名

でした。寺院でのビハーラ活動が多かったのは、僧侶・寺族の回答者が多かったせいでしょうか。問題は、どのような活動を寺院でビハーラ活動をしているという結果になったかです。

「あなたはどのような活動をしていますか」という設問の結果は、下図の「ビハーラ活動の内容」の通りでした。

この活動現場で、「ビハーラ活動養成研修会」が有効であったかと尋ねると、84%の人が「有効であった」としています。また「有効でなかった」を選択した人はありませんでした。

ビハーラ活動の内容



(2009年「第13回ビハーラ活動全国集会」アンケート調査結果)

このようなビハーラ活動を実践する中で、どのような「キーワード」を大切にしているか、25項目あげて尋ねました（複数選択を可としました）。

大切にしているキーワード

- ①傾聴 78名 ②共に 77名 ③ふれあい 60名 ④共感 51名
- ⑤相手の身になる 43名 ⑥学び 32名 ⑦よろこび 28名
- ⑧熱意 22名 ⑨理解 21名 ⑩報恩行 18名
- ⑪老苦 12名 ⑫努力 12名 ⑬苦悩 11名 ⑭交流 11名
- ⑮病苦 10名 ⑯現実 10名 ⑰死苦 9名 ⑱教え 9名 ⑲親切 8名
- ⑳伝道 4名 ㉑布教 3名・務め 3名

*その他 7名

以上のようなキーワードを、それぞれに大切にしながら関わっている人たちは、具体的に「ビハーラ活動記録」を書いているのでしょうか。これはビハーラ 10 年を終えて、次のステップアップには欠かせない事柄として、中央で「ビハーラ活動の記録書」を2種類作成し、養成研修でもトレーニングしてきたものです。これは内部にとっても外部発信するにしても、ミーティング、カンファレンス、報告、発表、研究、統計等のため必要不可欠としてきた事柄です。

また、ビハーラ活動の理論構築のため、また学術的水準の高いビハーラ考究をすすめるため、社会的に信用を高めるためにも、「ビハーラ学会」の立ち上げが話題に出されたこともありました。そうした将来性を考えるとき、記録類の集約は、必要と考えられていました。

しかしアンケートの回答は、

「記録を書いている」 47 名

「記録を書いていない」70 名

でした。書いている人の内訳は、

- | | |
|----------------------|------|
| 1. ビハーラ会員で共有している | 19 名 |
| 2. 記録を病院・施設に提出している | 15 名 |
| 3. ミーティング・研究会で共有している | 8 名 |
| 4. その他 | 5 名 |
| 5. 記入なし | 5 名 |

となっています。

書いてない人の内訳は、

- | | |
|-----------------|------|
| 1. その他 | 22 名 |
| 2. 個人情報にあたるから | 10 名 |
| 3. 記入なし | 9 名 |
| 4. 記入項目が分からないから | 9 名 |
| 5. 不要だから | 8 名 |
| 6. 面倒だから | 6 名 |
| 7. 忙しいから | 6 名 |

となっています。この実情を踏まえて、養成研修の修了時までには、きっちりその任にあたる人によって克服されるよう期待されるところです。また、教区ビハーラや教区内ビハーラでもこの記録を取ることの意義を理解し、その困難性を克服することが必要でしょう。

かつて書籍「ビハーラ活動」が発行されたとき、その次に社会発信のため「ビハーラ実践事例集」の発行について論議されました。それはこの「実践記録書」や「実践事例報告」の発表記録の集約で、目的が達成する道筋ができます。

5. 中央のビハーラの取り組み

(1) 中央組織のビハーラ推進経緯

ビハーラ活動を推進するために本願寺において最初の取り組みは、1986（昭和 61）年 11 月に教学本部に「医療と宗教（伝道）に関する専門委員会」（委員 8 名）の設置であり、以降 16 回開かれました。このとき取りまとめられた内容は「医療と宗教」（教学シリーズ N04）として発行されたところです。

また、この 1986（昭和 61）年に「ビハーラ研究会」をスタートし、その審議決定によって、ビハーラ活動を主体的に実践できる人材の養成に入ることになりました。それは、「第 1 期ビハーラ実践活動研究会」会員に応募することでした。

しかし、スタートにあたって総合カリキュラムの作成のみならず、基本的学習や実践的内容の決定やその実現のためになすべきことが多くありました。

そのため「ビハーラ実践活動専門委員会」を総局で委員 15 名以内を指名して、企画や資料作成に向けた会議が重ねられました。必要に応じて作業を部会別や班で行い、具体的取り組みをしてきました。

さらに内部立案を確実に実現し、また外部に最も的確に発信できるように、「ビハーラ問題協議会」を総局が委員 11 名から 13 名を指名しました。そこでは、将来的展望、宗門体制の確立、総合的実践展開といった諸問題が協議されていました。

ビハーラ活動も 10 年目を迎えるころには、カリキュラムも軌道に乗り、宗門内外のビハーラ展開も一定の形ができあがってきました。

その後二つあった委員会も、「ビハーラ活動推進委員会」一つにし、この委員会のもと企画研究専門部会と養成研修専門部会の二部会ですすめ、委員構成も学識者よりも教区ビハーラ経験者で構成されてきています。ビハーラ 20 年を迎えている今日の取り組み項目をあげておきます。

●企画研究専門部会

- ・ 20 年総括書作成にかかわる調査・研究
- ・ ビハーラ啓発資料の作成
- ・ 各組織団体の連携にかかる調査・研究
- ・ ホームページについて

●養成研修専門部会

- ・ ビハーラ活動養成研修会カリキュラムの検討
- ・ ビハーラケアワーカー（仮称）について
- ・ ビハーラ専門僧（仮称）について

・・・・・・2007（平成 19）年度ビハーラ活動事業計画より

(2) 中央の広報活動

ビハーラ活動の最初の 10 年は社会的理解を得るために、内にあつては積極的に啓発パンフレットや諸資料を作成しました。外に向かつては、説明や理解に供するに良いこれらの資料を持参し、施設や病院を訪問したことでした。

発行パンフレット一覧					
NO	タイトル	サブタイトル	有無	版	用途
1	いのちの輝き	いのちの尊さを大切にすあなたへのメッセージ	×	見開き	病床のベッドサイトにメッセージを書いておくもの
2	ビハーラ	いのちをみつめいのちを輝かせる	×	A4	ビハーラ活動全体を伝える紹介パンフレット
3	ビハーラノート	すべての人にやすらぎの世界を	×	B4 変形	ビハーラ活動の願いと具体的活動を徹底するため
4	ビハーラ	人々の悲しみ、共に感ずる心	×	B4 見出付	ビハーラの活動・ねがい・内容紹介
5	ビハーラ		×	A4	五つの方向性徹底のためのパンフレット
6	ビハーラ	あなたも私もともにほほえみの中	○	3 頁見開	理念・五方向性・活動・研修・教区教務所一覧
7	ビハーラ	あなたも私もともにほほえみの中	○	3 つ折り	五方向性と簡便なビハーラの説明

出版した図書・冊子一覧

NO	タイトル	発行年	版ページ	用途
1	ビハーラ活動提要	平成 8 年	A4・65 頁	ビハーラ推進者・事務担当者用にビハーラの要項・資料・名簿など掲載
2	ビハーラ懇話会	平成 2 年	A4・29 頁	養成研修受け入れ施設・病院との協議資料、実践報告・受け入れ施設の意見掲載
3	ビハーラ基本学習会講義録	平成 3 年 ～平成 10 年	I - VI 114 頁 - 187 頁	基本学習会の講義記録をまとめたもの。柏木哲夫、小西輝夫、早川一光氏ら多数
4	ビハーラ現状と課題	～平成 5 年		「宗報」に毎号掲載された記事を、年度ごとにまとめて発行された

5	焦点 ビハーラ活動	～平成9年		「宗報」に掲載された「焦点ビハーラ」記事を まとめて発行
6	ビハーラ活動 10年総括書	平成11年	50頁	ビハーラ10年の歩み、ビハーラ活動の現状分析、 課題と展望などの項目を立てて記述
7	ビハーラ活動 -仏教と医療と福祉の チームワーク-	平成5年	416頁	ビハーラ活動の源流からビハーラの現場の 紹介まで、広範囲の事柄を12名の専門性を 有する方たちの執筆による力作

(3)ビハーラ総合施設への期待

第2回ビハーラ全国集会が築地本願寺で開催された時、東京教区から「ビハーラ施設建設要望書」が提案されたことがあります。

一方、ビハーラ養成期間中に実習を外部の施設や病院に頼ることは望ましいことではなく、実習を終えてビハーラ活動ができる人材を養成して、活動場所へ出かけることが望ましいことはいうまでもありません。これまで協力施設・協力病院という形で好意によって、実習を続けてきたのでした。

やがて親鸞聖人750回大遠忌法要宗門長期振興計画の一貫として、ビハーラ総合施設の創設が計画され、2008（平成20）年4月1日、京都府城陽市で下記の2施設が開所されました。

特別養護老人ホーム「ビハーラ本願寺」

11ユニット 施設入所100名 ショートステイ8名

あそかビハーラクリニック

入院19床

第13回ビハーラ活動全国集会の参加者に、このビハーラ総合施設を知っているかどうかを調べた結果、「知っている」123名、「知らない」11名でした。その知っている人のうち、「訪問したことがある」35名、「訪問したことがない」は82名でした。

この集会の参加者に、このビハーラ総合施設に対する期待を尋ねますと、次のような回答がありました。

- ・多くの人にその存在・活動を知ってもらうこと 71名
- ・ビハーラ活動者の養成に役立つこと 43名
- ・緩和ケアなど実践に関すること 39名
- ・他の宗派に先駆けたモデルケースとして実績を上げること 32名
- ・その他 7名

これらの施設ができた以上は、ビハーラ実践活動の場所としてはもちろん養成実習の場所として、有効活用されることが望まれます。さらには、ビハーラケアのモデル的臨床の場として、その成果が生ずることが期待されています。

(4) 全国集会の経緯と今後

教区ビハーラが結成されたとき、「活動情報の交換と会員交流をしたい」との要望が出てきました。ビハーラ福井とビハーラ大阪の交流が始まり、福井の国立北潟病院で最初の交流会が持たれました。

そして1994（平成6）年2月に「第1回ビハーラ活動全国集会」が開催される運びになったわけです。

ここでおよそ、その全国集会の概要を一覧することになります。

ビハーラ活動全国集会 開催一覧

回	期日	開催地	テーマ	講師			分科会
第1回	1994（平成6）年 2月5日（土）	本山	目的：他教区の会員・組織との交流を深め、実状を学び、自らの活動に資するとともに今後の活動をより一層の充実を図ることを目的とする	基調講演	星野一正	京都大学名誉教授・医学博士	①組織運営に対するビハーラ活動 ②老人に対するビハーラ活動 ③患者に対するビハーラ活動
第2回	1995（平成7）年 2月4日（土） ～5日（日）	東京	がん患者と家族に 聞く生と死 ビハーラとは何か	基調講演	種村健二郎	国立がんセンター医師	①ビハーラの理念 ②ビハーラの実践 ③ビハーラ・リビング・ウィル ④安心して死ぬる場所
第3回	1996（平成8）年 2月3日（土） ～4日（日）	本山	阪神・淡路大震災 こころのケアと ビハーラ活動	特別講演	豊原大成	浄土真宗本願寺派総務	①いのち・聞かせて 医療の現場で ②いのち・聞かせて 福祉の現場 ③いのち・聞かせて 救援活動の現場で
				基調講演	川上範夫	奈良女子大文学部教授	
第4回	1997（平成9）年 2月4日（土） ～5日（日）	安芸	『ビハーラ昨日・今日・明日』	記念講演	早川一光氏	総合人間研究所所長	ビハーラ昨日今日明日を統一テーマに分科会を各会場にて行い、これまでの活動を振り返り、これからのビハーラ活動を考える
第5回 ※運如上 人500回 遠忌法要	1998（平成10）年 9月26日（土） ～27日（日）	本山	『いのちの讃歌－ 平等性を問う－』	記念講演	宮崎幸枝	宮崎病院 副院長	①電話相談 ②在宅ケア ③終末期ケア ④高齢者ケア ⑤障害者ケア ⑥臓器移植 ⑦法話活動

第6回	1999（平成11）年 7月20日（祝） ～21日（水）	長野	《生老病死と ともに》	記念 講演	松倉悦郎	フジテレビ アナウンサー	①ビハラーとは ②障害者とともに ③家族のケア ④生命倫理 ⑤カウンセリング ⑥ビハラーとボランティア ⑦医療・福祉制度 ⑧福祉制度のはざま ⑨ビハラーとホスピス ⑩ターミナルケア ⑪法話 ⑫臓器移植 ⑬生き方・死に方
第7回	2000（平成）12年 11月26日（日） ～27日（月）	本山	いのち・共生・実践 ～21世紀に向かっ てのビハラー～	特別 講演	廖仁	台湾：仁愛総合 医院院長 「台湾における 921大震災と心 のケア活動」	①ビハラー病棟の現状 ②生命倫理 ③現代仏教にみる看取り ④活動者のあり方を求めて ⑤カウンセリング 実践を通して
				記念 講演	杉本誠	日本キリスト教 団西尾教会牧師 「カルトに惹か れる青年たち」	⑥ビハラー活動での法話 ⑦介護保険と人権 ⑧在宅での看取り ⑨脳死と臓器移植 ⑩寺院機能とビハラー活動 ⑪災害とビハラー活動
第8回	2001（平成13）年 9月29日（土） ～30日（日）	岐阜	いのち・だれのもの やな？ －願われないのち－	基調 講演	山折哲雄	国際日本文化研 究センター所長 「共に生きるも のもやがて共に 死ぬ」	「トークサロン」 ①「障害」って、いったい何？ ②「青少年」のこころとビハラー ③NPOを考える ④高齢・少子化に問う ⑤終末期ケアとグリーフワーク ⑥「いのち」 とはその1 ⑦「いのち」 とはその2 ⑧民族差別

第9回	2002(平成14)年 9月7日(土) ～8日(日)	本山	ひろがれビハーラの輪 —新しいコミュニティづくり—	記念 講演	種村健二郎	栃木県立がん センター主幹 「ビハーラケア とは—終末期看 護で学ぶもの」	①ホスピス病棟でのボランティア ②知的障害者施設とビハーラ活動 ③私にできるビハーラ活動 —寺院にできるデイサービス— ④門信徒と共にあるビハーラ活動 ⑤ハンセン病問題 ⑥お寺での子育てひろば (若い母と子ども) ⑦ビハーラ病棟に学ぶ ⑧市民と共に歩むビハーラ活動 ⑨親子じゃないけど家族です ⑩ビハーラ活動の実際 ⑪県立病院でのビハーラ活動 ⑫ビハーラケアとは —終末期看護で学ぶもの—
第10回	2003(平成15)年 8月30日(土) ～31日(日)	福井	何のため生きるのかな? —つながってるいのち—	シンポ ジウム	鍋島直樹 (コーディネ ーター) 各連区代表者 (パネリス ト)	「ビハーラ活動を 活性化するには」	「トークサロン」 ①福祉・医療と宗教をつなぐ ②いのちといのちをつなぐ ③おもしろいとおもしろいをつなぐ ④ひととひとをつなぐ ⑤こころとこころをつなぐ
				記念 講演	永 六輔	作家 [カゴハ楽しく、 闘病も楽しく]	⑥ななかまとなかまをつなぐ ⑦おもしろとおもしろをつなぐ ⑧かんけいとかんけいをつなぐ
第11回	2004(平成16) 年10月2日 (土)～3日 (日)	本山	ビハーラ・その求める もの求められるもの	記念 講演	鎌田 實	諏訪中央病院 管理者 [がんばらない] けど[あきらめ ない] —命を支えると いうこと—	①がん患者・家族語らいの集い ②ハンセン病から見えてくるもの ③ビハーラってなあに? ④在宅での看取り ⑤仏教と生命倫理 ⑥グループホームでのビハーラ活動 ⑦青少年問題の解決と予防のための試案 ⑧ビハーラ活動に求められるもの ⑨カウンセリング ⑩真宗の教えとビハーラ活動 ⑪フリートーク

第12回	2005（平成17）年 6月18日（土） ～19日（日）	熊本	「いのちによりそう」 ー地域に根ざした ビハーラ活動ー	記念 講演	田代俊孝	同朋大学院教授 ビハーラ医療団 世話人 「死そして生を 考える」	①ビハーラってなあに？ ービハーラ活動入門講座 ②仏教の生命観 ービハーラの原点を探るー ③グリーフケア ー遺族の悲しみに寄り添ってー ④心を聴くボランティア養成講座 ⑤院内ボランティアとビハーラ ⑥私にできること ー松岡病院での活動を通してー ⑦緩和ケア病棟の現場から ー私の実践活動ー ⑧地域（寺）におけるビハーラ活動の 可能性 ⑨ハンセン病問題とビハーラ ⑩人権コンサート ー聴き・語り・共に考えよう“いのち”
第13回	2009（平成21） 1月31日（土） ～2月1日（日）	本山	悲しみによりそう ー地域とともにあゆ むビハーラ活動ー	記念 講演	小西達也	東札幌病院 チャプレン 「死の臨床にお ける心のケア とチャプレン」	【さまざまな悲しみに寄り添う】 ①自死とビハーラ ②子どもを亡くす悲しみ ③がん患者家族とビハーラ 【お寺のビハーラ】 ④葬儀・法事とビハーラ ⑤寺院活動と遺族ケア お寺で悲しみの語らいの会を 【医療・福祉施設とビハーラ】 ⑥在宅での看取り ⑦施設間交流 ⑧医療とビハーラ 【これからのビハーラ】 ⑨フリートーク ⑩事例発表（一般公募） ⑪ビハーラ活動の点検と課題

「第13回ビハーラ活動全国集会」が2009（平成21）年1月31日・2月1日に本願寺を会場に開催されました。この参加者に対し、今後の全国集会をどのようにしていくべきかアンケート調査しました。回答者は次の通りでした。

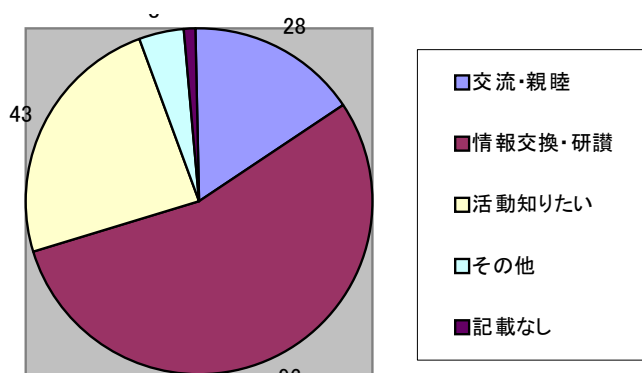
■年令別 66歳以上 65名 52歳以上—65歳 52名 31歳以上—51歳 22名
 30歳以下 8名

- 男女別 男性 73名 女性 113名 不明 3名
- 門僧区分 僧侶 45名 寺族 33名 門徒 67名 その他 11名
記載なし3名

参加者は、ビハーラ活動を「大体理解している」115名、「少しは知っている」31名、「知らない」4名であることからビハーラ活動に関与している方が参加した集会といえるでしょう。

全国集会に「毎回参加している」人は44名、「過去に参加したことがある」53名、「初めて参加した」54名でほぼ三分されている結果が見られます。「初めて参加した」のは、養成研修会を終えて直後の参加が多いということでしょう。それでは、どのように知って参加しているのでしょうか。「教区ビハーラに所属して」91名、「教区教務所」24名、「教区ビハーラ代表者の紹介」12名、「友人知人の紹介」11名で、ほぼ教区ビハーラや教区教務所など組織的の伝達をとおして知った人が多いということが判ります。「本願寺新報で知ったから」は3名、「ポスターなどで知ったから」が3名で少数でした。

全国集会の参加目的は、大半の方は「情報交換・研讃」で、ついで「活動を知りたい」でした。「交流・親睦」も4分の1あることが分かりました。

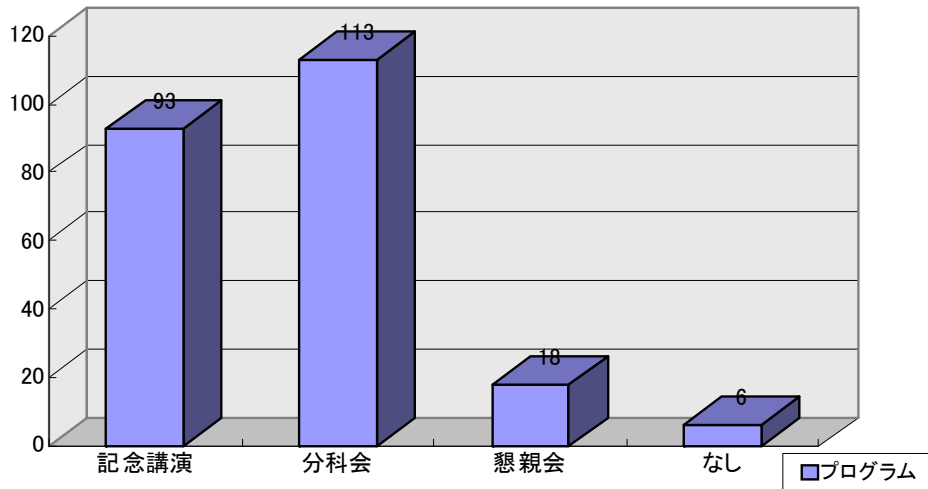


それでは、この全国集会に参加した人たちは、「分科会」ではどのように分散したかを見ましょう。

分科会	分科会テーマ	人数
1	自死とビハーラ	33
2	子どもを亡くす悲しみ	14
3	がん患者家族とビハーラ	46
4	葬儀法事とビハーラ	66
5	寺院活動と遺族ケア	29
6	在宅での看取り	33
7	施設間交流	18
8	医療とビハーラ	17
9	フリートーク	17
10	事例発表（公募）	20
11	ビハーラ活動の点検と課題	18

「葬儀法事とビハーラ」の参加者が最も多かったのは、この集会参加者に僧侶寺族の参加者が多かったことによると思われます。

この「全国集会」で興味をもったプログラムは、下図のようでした。



「記念講演」に対する感想を聞きますと「有意義で大変参考になりました」65%「専門的すぎて、難解だった」35%ですが、それぞれの記述内容は極めて個別的でした。

今後の全国集会の開催については、

1. 隔年開催を望む 68名
2. 毎年開催を望む 54名
3. 3年に一度開催を望む 14名
4. 4年に一度開催を望む 1名
5. その他 2名

といった記入でした。

これからの全国集会での「望むプログラム」を複数記入で求めた結果、次の通りでした。

- ①講演 99名 ②活動報告 41名 ③事例発表 40名 ⑤交流会 23名
- ⑥意見発表 21名 ⑥パネルディスカッション 21名 ⑧親睦 20名
- ⑧研究発表 20名 ⑩シンポジウム 19名 ⑪展示発表 1名 ⑪その他 1名

このように「第13回ビハーラ活動全国集会」参加者の意向を受け止めて、今後の集会が企画されるときに対応されることが望まれています。

6. ビハーラ活動の反省

ビハーラ活動を宗門内に周知するために1988（昭和63）年から長期にわたって「宗報」に掲載されてきました。その記事は、ビハーラ活動の取り組みの現状から、ケアの現場で当惑している報告、さらに当惑している問題まで様々なテーマでした。近年は、ときおり教区ビハーラや仏教婦人会のビハーラの現場がトピック的に「本願寺新報」に掲載され、現在話題としてビハーラ総合施設の記事掲載が多くなっています。

ビハーラ活動実践者養成という目的で養成された人たちは、その後ビハーラ現場でその

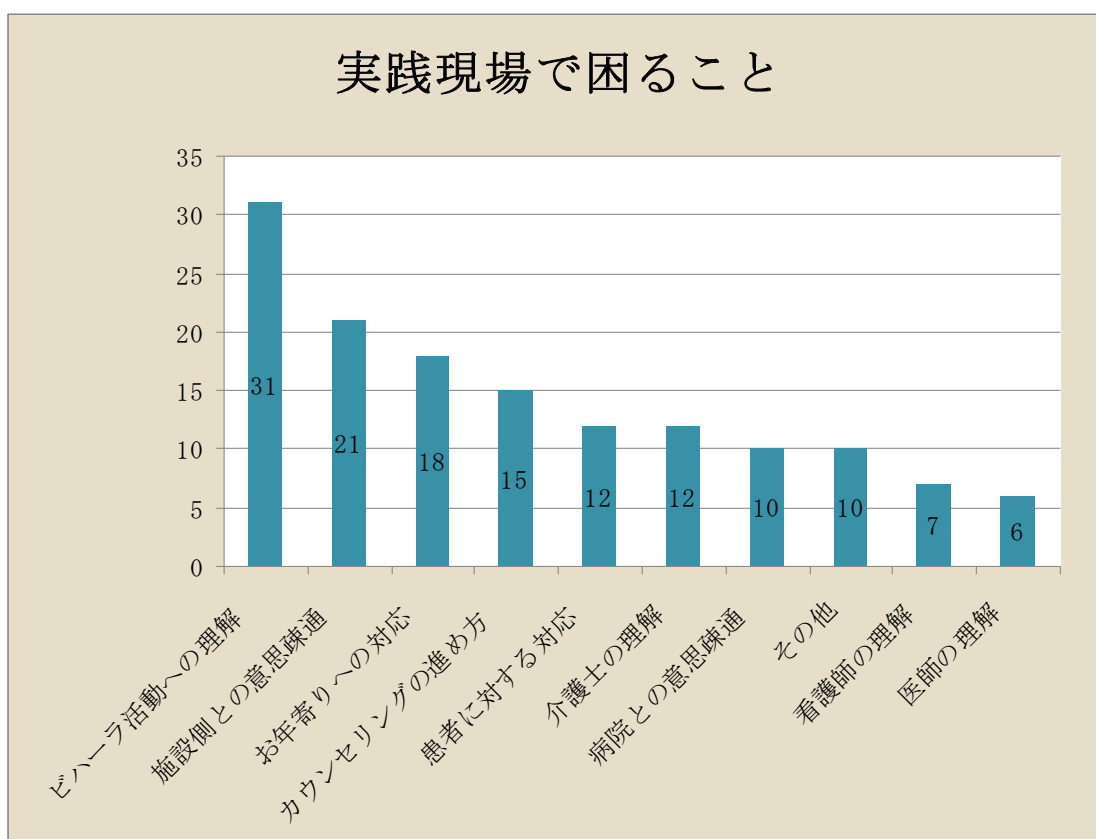
目的に向かって活動しているのでしょうか。また、活動に加わったものの、残念ながら途中で挫折したり、高齢になり活動参加がしにくくなってはいないのでしょうか。

それでは、ビハーラ活動をしていて実践の現場で、どんなことに困るのでしょうか。

「ビハーラ活動への理解」が、「理解がない」「理解してもらえない」といったことですが、病院の代表者だけでなく、働いている多くの方に理解していただく機会が活動当初に必要なことだと考えられます。そのことによって、「施設側・病院側との意思疎通」や「介護士・看護師の理解」とも深くかかわって、困ることの解決の一步になるのではないのでしょうか。

「施設側との意思疎通」「病院側との意思疎通」は、話し合いの機会を設けることが先決で、そこで解決策を見出したいことです。「介護士の理解」「看護師の理解」も同じことで、「困りごと」を抱え込まないで話し合うところに道は開けることです。

「患者に対する対応」「カウンセリングの進め方」は、さらに学びを進めていくことで解決されるものか、また対応や進め方の成功している人に教示願ったり、時には経験豊富な人を招いて学習する機会をもつことも有効ではないのでしょうか。



(2009年1月「第13回ビハーラ活動者全国集会」調査結果)

このように困ったことが起こったときに、ビハーラ会員はだれと相談しているでしょうか。

困ったことの相談相手

- ①ビハーラ会員 48名 ②教区ビハーラ役員 21名
 ③施設関係者 21名 ④住職 20名 ⑤友人 16名
 ⑥病院関係者 6名 ⑦医師 5名 ⑧養成研修講師 3名
 ⑨介護士 3名 ⑩看護師 2名 ⑪その他 3名

以上のことから、会員どうして相談したり、相談にのったりしていることがきわだつて多いことが分かりました。ただし、相談しない、相談できないという人が5名ありました。ビハーラの会合で、相談しやすい環境・雰囲気作りが欠かせないことになります。

実践現場で「困ったこと」を15名の方が記入されていました。「手伝いのボランティアのように施設に利用されている」「活動の費用が自己負担となる」「新しい病院へかわりをもちたいと思うが、“宗教”がジャマをする」「法務多忙の折は気持ちが向かない」「医療・福祉の現場のみがビハーラ活動の現場ではない」「居宅訪問が許されない」「積極的に働きかけない無反応な寺院」といった様々な記載でした。

次に、アンケートに対する教区の回答書から、問題点、反省点を挙げてみます。

(1)ビハーラ活動反省点

教区ビハーラ	反省内容
ビハーラ東北	・活動範囲が広く、活動も横手市に限られている（協力施設がある）
東京ビハーラ	・「なぜビハーラか」個別差異を乗り越えられない ・単なる社会福祉活動の一環と見られているが克服できない
ビハーラ長野	・「いつでも・どこでも・誰にでも」の特徴を ・「ゆるやかな共同体」との柔軟性を失ったのでは ・会員の高齢化、若手へのバトンタッチ
ビハーラ国府	・実践活動者が固定化してしまった ・拠点施設ごとで分散活動（地域活動ごとに差が大きい） ・「安らぎ」を会員も、入所者も感じているか
ビハーラ新潟	・発会以来、活動者が固定したこと ・養成研修を終えた人の会員活動が少ない
ビハーラ富山	・次世代の育成 ・施設と担当者の固定化 ・ビハーラ活動の本質となっているか

ビハーラ高岡	<ul style="list-style-type: none"> ・発足 15 年が過ぎ、会員の高齢化と若年層の新入会員が不足している ・個人活動もあり、教区ビハーラで把握しづらい ・会員でなくてもビハーラ活動ができる点、組織的にどう動けばよいか ・居室訪問ができにくくなっているそのため法話会などが中心
ビハーラいしかわ	<ul style="list-style-type: none"> ・4 施設のうち定期的活動は 2 施設 ・会員の人数が少ない ・地理的に施設まで遠い ・会員負担を軽減して活動を継続したい
ビハーラ福井	<ul style="list-style-type: none"> ・活動者の固定化 ・活動内容の固定化
ビハーラ岐阜	<ul style="list-style-type: none"> ・活動施設の拡大は成果であったが、活動に出る実践者が固定し限られ、実践者不在という状況（幅広い活動者急増にためらいがあった）
ビハーラ東海	<ul style="list-style-type: none"> ・休会となった施設が生じた ・実践活動の継続が困難
ビハーラ “シガ”	<ul style="list-style-type: none"> ・重要なのは継続活動 ・ビハーラコーディネーターの育成 ・新しい活動者の募集 ・活動者の高齢化が深刻
ビハーラ京都	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のアンバランス（北部と南部との一体化が困難） ・活動者の固定化（新会員の発掘・活動の流動性の確保） ・学習活動が不十分（テーマ・講師選定の課題） ・活動者のモチベーションアップ（継続性確保の問題）
ビハーラ奈良	<ul style="list-style-type: none"> ・施設訪問に参加できる方々が、一部に限られている ・一般公開の「ナイトゼミナール」の参加者が少なくなったので、2001 年から「奈良セミナー」に変更した
ビハーラ大阪	<ul style="list-style-type: none"> ・ビハーラ活動を一般化する方向性「ビハーラというライフスタイル」のテーマを掲げる ・ビハーラを特化した専門家の方向性 ・ビハーラ活動の周知の徹底と地道に活動裾野を広げる
ビハーラ和歌山	<ul style="list-style-type: none"> ・活動と特養が一箇所にとどまっている ・訪問の病棟を発掘していきたい
ビハーラ兵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関との連携がとれなかった ・活動者の減少 ・教化団体に広報（理解・説明）ができていないため、ひいては会員が少ない ・活動施設ごとの世話人の後継者育成が課題

ビハーラ山陰	<ul style="list-style-type: none"> ・「ビハーラ研修」が会員対象にとどまっていた ・一般門信徒に対する啓発が不十分であった ・各組への啓発が不足がちであった ・僧侶・門信徒に医療・福祉説への勤務者が多いのに、実態把握、基本的調査をしていなかった
ビハーラ備後	<ul style="list-style-type: none"> ・施設などでのビハーラ活動に参加する人が少ない ・本派施設以外での活動場所が少ない（活動場所が片寄っている） ・仏教婦人会院へのビハーラ活動の周知ができていない ・各お寺へのビハーラ活動への参加の働きかけができていない
ビハーラ四州	<ul style="list-style-type: none"> ・個々活動と教区とが連携できなかった（全教区活動とならなかった）
ビハーラ備後	<ul style="list-style-type: none"> ・施設などで活動に参加する人が少ない ・活動場所が片寄っている ・仏婦会員へ周知されていない ・お寺への働きかけができていない
ビハーラ安芸	<ul style="list-style-type: none"> ・活動者が固定して、協力者が増えない ・活動がマンネリ化して広がりがない ・要望があっても人材難のため、長期にわたって応えられない
ビハーラ山口	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化・会員の減少傾向（新会員が増えない） ・県内四エリアで活動しているが温度差がある ・山口全体での活動が進んでいない
ビハーラ北豊	<ul style="list-style-type: none"> ・公開講座など参加者の激減 ・連続講座をすすめたが、活動者養成までには至っていない ・養成研修の修了者がビハーラ活動に参画していない ・病院や施設の活動要望にマンパワーの不足 ・育成と活動参画がうまくいかなかった
ビハーラ福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・僧侶なかでも、寺院後継者の参加が少ない ・僧侶の会員は、門徒から僧侶になられた方が多い ・活動者が減少している若年層がいないリタイヤ組が多いので、60代の人を大切に育てたい ・教区担当者によってビハーラ活動に開きがある
ビハーラ大分	<ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとに活動も増え、教区内にビハーラ活動が拡がりつつある
ビハーラ佐賀	<ul style="list-style-type: none"> ・一度に会ったの活動は順調しかし、パターン化かしていないか変化を求めてもいいのではないか ・居室訪問をもっと活発にできないか
ビハーラ長崎	<ul style="list-style-type: none"> ・施設などのニーズに応えきれない状況があり、現在、会員の増員が望まれている ・教区内での広報活動などビハーラ活動の周知を

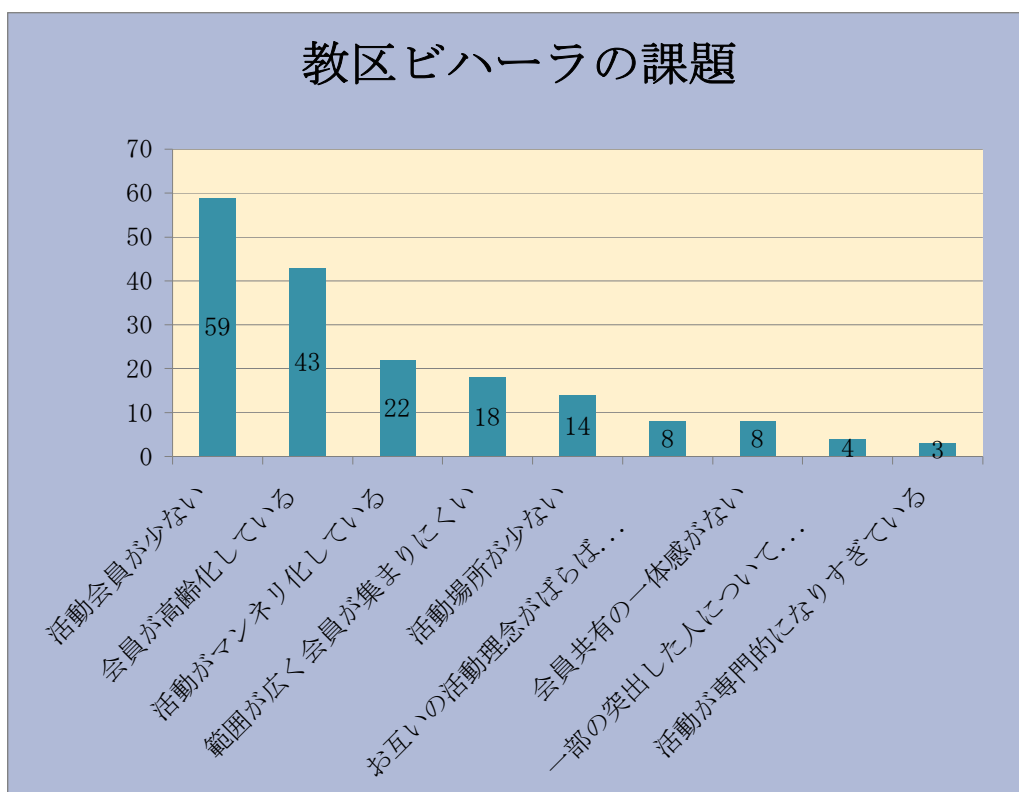
ビハーラ熊本	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的活動会員の人数と実態がつかめなかった ・継続的呼びかけが不足していた ・講演会と活動で理念は浸透している
ビハーラ宮崎	<ul style="list-style-type: none"> ・実践活動に取り組むことができなかった
ビハーラ鹿児島	<ul style="list-style-type: none"> ・活動施設を増やすことができない ・活動者が固定している ・僧侶の理解が得られない
ビハーラ沖縄	<ul style="list-style-type: none"> ・病院において宗教活動は断られる状態 ・真に相手の心に寄り添うことができたという確信には至っていない

全体的に「会員の減少」「活動に出られない会員が多い」「会員の高齢化」「若年層の入会が少ない」といった課題、反省点をかかえているところが多いです。また、活動現場の要望に応えられないといった悩みも抱えておられます。

「ビハーラ活動者養成研修」をうけながら教区ビハーラ会員になろうとしなかったり、活動現場に出られないといった状況は、早く克服しなければならないことです。研修受講生には推薦の段階に、研修中に、また研修終える時、折にふれ活動者養成の目的にそってもらうように訴えかけるよう、関係者の努力が望まれます。

とくに、僧侶にビハーラ活動の理解がないとか、隔たりがあるといった意見は、僧侶の資質が厳しく問われていることから、問題を共有する必要があります。

教区ビハーラからの報告で出てきた課題は以上ですが、次に「第13回ビハーラ活動全国集会」出席者のアンケート回答で見えます。



この課題を見ますと、やはり「活動会員が少ない」59名、「会員が高齢化している」43名が多く、ついで「活動がマンネリ化している」22名「活動範囲が広く会員が集まりにくい」18名の順になっています。

止むことなく会員を増やす努力をする、若年層の参加を働ききかけることが、いかに大切かということになります。活動のマンネリ化は、いかにビハーラ活動が定着したかの証左にもなりますが、もっと幅広い活動をしたいとか、より魅力のあるビハーラ活動をしたいとか、同じ活動ではなく変化のある活動をしたいとの欲求でしょうか。よき助言を得て会員どうしの話し合い、病院や施設との話し合いが大切でしょう。

教区ビハーラで一カ所に集まって行動するには、範囲が広すぎるというのももつともです。会合の場所を移動したり、ビハーラ活動の実践場所を住まいに近いところにするなど、工夫をして活性化した事例もあります。

(2)これまでのビハーラ活動

ビハーラ活動が10年を経たとき下記の6点の課題を取りあげました。それらに取り組み、その解決に向けて進んで行けば将来の展望が開けてくると考えたのでした。その10年を課題ごとに評価いたしました。

①ビハーラ研究機関の設置

この項目ではビハーラ理念の構築の積み上げ、ビハーラ臨床研究を進める機関の設置、研究会などの発表機会などを課題としたことでした。しかし、理念の構築をみても結局は個人の研究発表を主とした採用の範囲内でした。教学研究所でも研究部会ができましたが、ビハーラ関係者の期待するものと違い、結果は霧消しました。研究発表や研究誌の発行は、むしろビハーラの専門僧侶などの審議に時間を要し、時期尚早であった感は否めないことでした。

②ビハーラ組織の改革

「ビハーラ実践活動研究会」の会員による構成システムの廃止、教区ビハーラのネットワーク強化、コーディネーター役の醸成などが挙げられていました。この中で、「教区ビハーラ代表者会」は規約もできて整備されました。中央のビハーラ推進機関も「ビハーラ活動推進委員会」に一本化されました。そのもとで2つの専門部会が機能している現状です。ただし、専門性の高い問題に対応・検討するときあるいは助言が必要なときはどうするかが問われます。

③新カリキュラムの採用

この総括書が検討されていたときは、ちょうど養成者研修のカリキュラム改定作業が進んでおり、その採用時期でした。今回を含めこれまでに3度の改定が行われ、現行カリキュラムとなっています。ビハーラ活動を受け入れていただいている施設や病院側にも、この学びの実情を知って頂くと、どのような活動を展開するか協議しやすくなることです。

④情報収集とコーディネーター養成

この課題が出されたときは、急激にビハーラの出版物の発行が減少していて、

わずかに「ビハーラ通信」年2回だけとなっていました。近年、連区代表や教区代表者の会議等での情報の交換や収集がより緊密になされるようになってきております。

今日、社会のIT依存度が急速に高まった現状では、現在の本願寺ホームページ社会部からのアクセスによる方が迅速かつ低廉、高効果を生む状態となっています。

事実、「Google」でアクセスすると、「ビハーラとは」で16,000件、「ビハーラ活動」では25,600件、「ビハーラ本願寺」で8,190件（2010年1月現在）と膨大な閲覧量となっています。今後「アクセスしてよかった」という声が聞かれるような、名実ともに充実した「ビハーラ・ホームページ」作りが望まれており、また宗門の中にもすでに情報発信している方々とともにネットワークを組むことも急務となってきています。

情報の収集こそ、コーディネーター役割の一つです。その役割は、ビハーラ活動希望者を受付け、広報活動を企画し、施設や病院を訪問して調整し、学びの場づくりをし、社会的アクションを起こし、記録・統計などフェースシートをまとめ、広報活動をし、関係記事のスクラップや関係する機関を訪れるなどをする、多彩な役割が求められます。ビハーラ活動の早期には2期にわたってコーディネーター養成研修が実施されましたが、現在の養成専門部会の検討では続行しないことになっています。

⑤ビハーラ活動の啓発と人材発掘

ビハーラ創設当時、活動の啓発をいわれた理由は、宗門内の僧侶や寺院の体質問題と社会問題に関する関心の低さを何とか打開したいという思いがありました。また、ビハーラの社会期待を高めるための啓発が必要だったからです。

この課題は、教区ビハーラから常時中央の「ビハーラ活動者養成研修会」に応募する働きかけをすることに絞り提案しました。しかしここ10年の状況は、むしろうまくいっていない教区が少なくありません。今後とも、その要因を探り、継続して啓発と人材の発掘に努めたいことです。

⑥ビハーラ専門僧侶の認定と任命制度

この制度について、ここ10年以上養成研修専門部会にて検討を重ねてきました。専門部会での協議は継続中ですが、その実践において龍谷大学と宗門の連携がさらに重要になっております。

このたび龍谷大学大学院修士課程に実践真宗学研究科が設立されました。特に、ゼミに、

1. 現実の苦悩を乗り越えるためのカウンセリング
2. 現実の老病死への対応の中で生きる意味を見出すビハーラ活動

が挙げられています。これらの活動支援をサポートされることが、大学側で決定されるまでになりました。残るは、いち早くその認定を制度上確立して、受け皿を設けておかなければなりません。

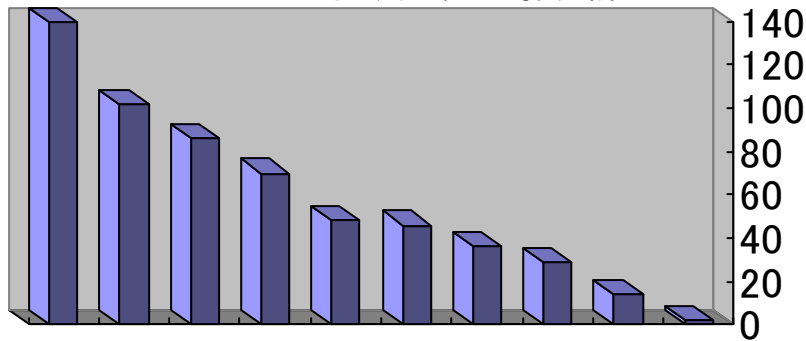
ここまで「ビハーラ10年総括書」の「ビハーラの課題と展望」の項目が、どのようにここ20年を迎えるまでに取り組みされたかを概観しました。

7. ビハーラ活動の今後

ビハーラ活動の問題点や反省点を見るときわめて厳しい現実があることが知らされます。また、活動現場から要望があるのに応えられないということは、意識改革と要請・育成の増員とを急がなければなりません。

10年前を思い起こしていただきますと、当時のアンケート調査では、ビハーラ活動を発展していくためには、どういう問題を解決していったらよいか、という注目すべき内容のものがああります。(下図参照)

ビハーラ活動発展の解決課題



	僧侶・寺院の体質的問題	教団の変革	組織の位置づけ	教義の解釈と社会性	会員の努力	財政的問題	社会の問題	方向転換	ビジョンの問題	その他
■ 解決課題	140	102	86	70	48	46	36	29	14	2

(1996年2月「第4回ビハーラ活動全国集会」(安芸教区実施の事前調査))

現在はどのような問題・課題があるでしょうか。設問は「教区におけるビハーラ活動のこれから10年の課題」というアンケートに答えたものです。

(1)これから将来の課題

ビハーラ名	内容
ビハーラ東北	・広く呼びかけ、活動を活性化したい
東京ビハーラ	・運営委員の高齢化とその打開 ・ビハーラのモデル施設を築地本願寺に
ビハーラ長野	・当面する世代交代の問題 ・固定化している現状の打開 ・全員のビハーラ活動としての災害ボランティアをめざす
ビハーラ国府	・ビハーラ活動にかかわる会員の増加を ・ビハーラ理念の多くの方への徹底方策
ビハーラ新潟	・組単位を中心とした活動にしていきたい

ビハーラ富山	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代の育成をする ・施設と担当者の固定化を破る ・ビハーラの本質となるように
ビハーラ高岡	<ul style="list-style-type: none"> ・教区全体で取り組むビハーラ活動体制を作りあげないといけない ・「宗門としてビハーラ活動に取り組む」という意思には、組活動の集合体、教化団体の集合体という教区の形にならない ・会員制で組織されている現状は、今後維持することが困難
ビハーラいしかわ	<ul style="list-style-type: none"> ・会員の高齢化に対して積極的に新会員の獲得を
ビハーラ福井	<ul style="list-style-type: none"> ・教区の運動体としての役割意識 ・活動拡大の仕組みづくり
ビハーラ岐阜	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる活動内容の質的充実 ・実践会員を増やす ・テーマを決め、分野別に長いスパンでの研修プログラムを組む
ビハーラ東海	<ul style="list-style-type: none"> ・ビハーラ活動への関心の高まりから、活動が確実に広がる手ごたえを感じる ・これからもビハーラの願いを実践の場にビハーラ活動の継続を
ビハーラ “シガ”	<ul style="list-style-type: none"> ・ビハーラ活動者の発掘と相互研鑽 ・ビハーラコーディネーターの育成 ・教区的全組織と連携し、ネットワーク化 ・カウンセリング研修会の充実
ビハーラ京都	<ul style="list-style-type: none"> ・時代・環境対応のビハーラ活動（医療・福祉状況に柔軟に対応） ・活動者の安定的確保 ・継続的な学習システムの確立 ・各教化団体との連携
ビハーラ奈良	<ul style="list-style-type: none"> ・若年層にビハーラ活動の理解を深めるための啓発 ・よき聞き手となるための学習を会員相互で研修を重ねているが、今後どのように発展させるかが鍵
ビハーラ大阪	<ul style="list-style-type: none"> ・新規会員を増やせなかった ・PR 不足、アプローチができていなかった ・教区の公式団体と認知され、環境が整ってきた ・公立施設からも依頼がきている
ビハーラ和歌山	<ul style="list-style-type: none"> ・寺院住職方へのビハーラ理解の発信
ビハーラ兵庫	<ul style="list-style-type: none"> ・養成研修者の活動継続 ・ターミナルケア（医療関係との連携）

ビハーラ山陰	<ul style="list-style-type: none"> ・教区として活動の拡大と充実を目的に、教区として組織化を図ることが望まれる ・組基幹運動推進委員会にビハーラ部門設置を促す今後、高齢者や障害者に対するケア、がん患者をはじめとする終末期医療の本人や看病される家族、ひいては遺族に対するケアなど、すべき取り組みは多い
ビハーラ四州	<ul style="list-style-type: none"> ・寺院僧侶門徒がいかに社会の様々な問題に向かい合うことができるか
ビハーラ備後	<ul style="list-style-type: none"> ・魅力のある研修会・協議会を開催し、ビハーラ活動の意識を高揚すること ・教区内に万遍なく活動が行き届くよう活動の場を開拓すること ・仏教婦人会・門徒推進員に働き掛け、活動に参加する人を増やすこと ・高齢者施設に入る人の状況は一層悪くなっているなんとか支えの形をしっかりと作っていききたい
ビハーラ安芸	<ul style="list-style-type: none"> ・各組・各地域での施設におけるビハーラ活動に、アドバイスできる等の対応を即時に行える組織作り
ビハーラ山口	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな会員の勧誘 ・教区全体のビハーラ活動の理解を促す ・各組・各寺の取り組みを広げる
ビハーラ北豊	<ul style="list-style-type: none"> ・寺院の理解や協力が得られないまま今日に至る ・組支部の結成を見たので、教区ビハーラの支援をすすめる ・「派遣村」的な具体的活動を ・コーディネーターの存在は不可欠
ビハーラ福岡	<ul style="list-style-type: none"> ・各寺院にどうビハーラ活動を広げるか ・グリーンケアの浸透をめざす ・老人ホームと教団の僧侶との関係強化 ・自薦者養成と僧侶若年者層への浸透 ・教区内に活動が行き渡るような方向を各組・ブロックなどに出張講座をしたい ・災害については連区内で組・教区内での支援体制を整えるべき（距離・費用から他の教化団体との連携・リタイヤ組新卒組等を大切にする）
ビハーラ大分	<ul style="list-style-type: none"> ・法話会の充実 ・傾聴ボランティアの養成 ・居室訪問できる施設の拡充
ビハーラ佐賀	<ul style="list-style-type: none"> ・居室訪問を活発に ・他団体との交流を図る ・在宅訪問や電話相談等にも進出

ビハーラ長崎	・変わりゆく社会環境により生じる現代的課題をとおして、ビハーラの願いを再確認し、「だれでも・どこでも・いつでもできるビハーラ」をめざし、取り組みをすすめていきたい
ビハーラ熊本	・五支部に分割して、支部拠点の活動を ・所属団体や各組（かくそ）との連携協力を ・医療・福祉機関との情報交換や活動の連携を密接に
ビハーラ宮崎	・啓発活動を中心に行っているが、いかに実践者を養成していくかが今後の課題
ビハーラ鹿児島	・より一層寺院を中心とした活動として、ビハーラ会員に限らず、僧侶・門信徒が地域の課題に取り組んでいただけるようにすること
ビハーラ沖縄	・グループとして発展できないかと寺坊婦人会に相談、わずかな人数ながら同意が得られた今後学び広めていきたい

今後の教区ビハーラの取り組む課題は、上記の回答のように様々です。それは、教区の置かれた現状あるいはビハーラ活動の現状認識と深くかかわっていることです。

軌道を走りつづけてきてここで曲がり角を迎えている教区、やや順調に活動している教区、これから動き出そうとしている教区、教区の置かれている状況に大きな違いがあります。

しかし、ビハーラにかかわった人はかけがえのないものを現場から得、今までに気づかなかったことに気づかされた人たちが多くいます。阿弥陀如来の慈悲に育てられた共感性のゆえでしょうか。そこに共歩・共感・共生の喜びが生じているからでしょう。

(2)ビハーラ活動の新しい動き

ビハーラの20年の今日では、困難な課題も多くあります。会員の減少、会員の高齢化、養成研修を終えたが教区会員になっていない人、さらにビハーラの現場要請があるという嬉しい要望があるのに応えられないこと、活動者があまりにも少ないこと…まだまだあります。

しかし、今回の総括の中で、20年の歩みがあったからこそ生まれている胎動があります。

①組単位、単位仏教婦人会、寺院単位でのビハーラ活動が増えてきています

しかも会員も多く、活動場所も多く、活動回数も多いという好ましい方向で進んでいます。これは将来に大きく期待を持たせるものです。組織の始まりは、最初は点であり、点どうしが結びつき合って線となり、線が周りへの強い影響力によって面となってゆくことです。

②詳細な研修が求められつつあります

それは、養成研修を終えた人へのアフターケアの必要性から修了後の研修が必要だ

とはっきりわかってきました。また分野別の研修、段階別の研修、専門的研修などの希望する声が増えてきています。採否はいかにあれ、その必要研修を選別し、実行することが望まれています。

③ビハーラ専門僧侶の要望が強くなっています

いわゆるチャプレン・レベルの育成が期待されてきています。現場理論と現場スキルで、研修や現場でのリーダーシップの発揮や確かな助言を受けたいという要望です。そこには、社会レベルに対応した、ビハーラ考究とその発表が欠かせません。「ビハーラ専門僧侶」育成の要望はビハーラ活動がスタートしてまもなく出てきたテーマでこれまで検討は続けられてきましたが、まだ結論に基づいて実行力のあるものにはなっていません。急務を要することです。

④「ビハーラ効果」が出ています

ビハーラの社会に与えたインパクトは大変強く、これまでの寺院や僧侶活動に対するイメージを大きく変えつつあります。

意欲ある僧侶・寺族・門信徒にとって、ビハーラ活動は大きな魅力であり、社会的接点が確実に広がっています。今後、ビハーラ総合施設の設立によって、これをキーステーションとしてより波及効果が広がることが期待されています。さらに、各領域の学会などにビハーラ発表が増えてきており、その理解者も確実に増加してきています。また、私たちのビハーラ活動が他教団に与えた先導的役割も大きいものでありました。

8. まとめ—今後の発展のために

(1) 状況の変化のなかで

現代社会の変化は急激で、ビハーラ活動に取り組んだ周囲の状況、教団の取り組み状況など大きく変化しております。

その間ビハーラ活動の当初は、「萌芽の10年」といわれました。その後の10年は、葉や茎の伸びと手入れで「伸長の10年」ということになります。

「ビハーラ」という用語を、仏教者が生老病死を前に苦悩する人々に寄り添って活動をする、という共通理解をもって取り組むことになりました。私たちも先行されていたこの呼び名に呼応して、具体的に仏教ケア・臨床ケアを実践の中で可能にするよう、第1期・第2期・第3期と養成をはじめ、そして実践活動に励んできました。

いざスタートすると最初のニュース性や興味性と違って、内にも外にも厳しい意見が噴出してきました。

「社会に広げる必要がない。僧侶や門信徒対象だけの活動でよい」

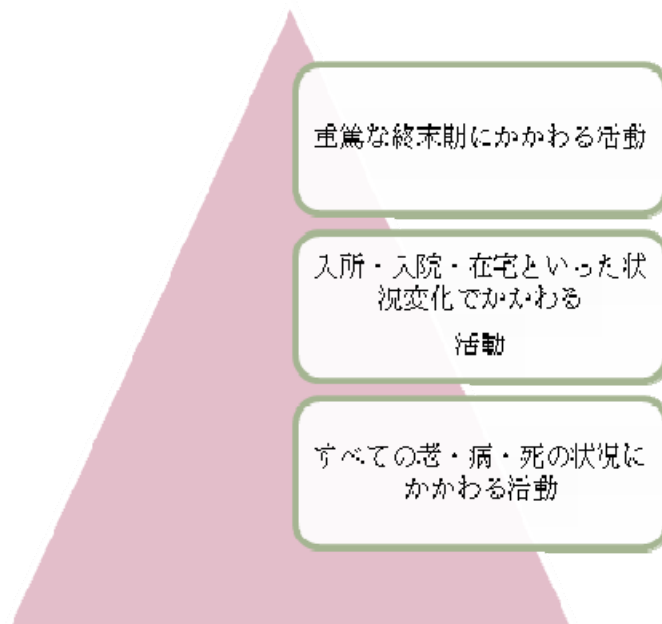
「社会活動はあとのことで、大事なものは仏参や聞法だ」

「葬式や法事本位の仏教が、なぜ医療や福祉にかかわる活動をするのか、まったく理解しがたい」

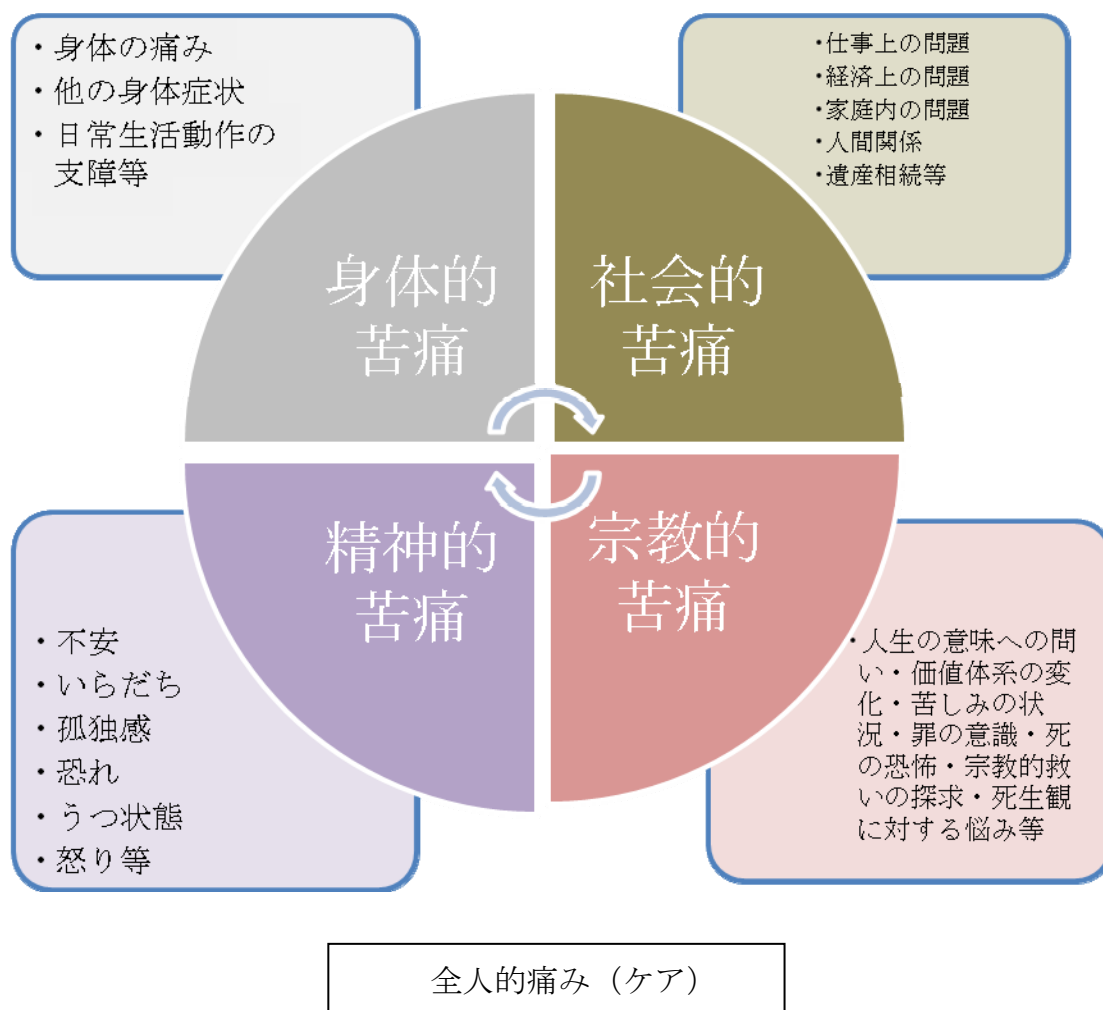
「病人のところへ執拗にやってくる新興宗教に困ってきた。一つの宗派だけに活動を許可することはできない。ここは仏教の伝道場所ではない」

このような主張や誤解・偏見が内外に多くあって、地道に取り組んで一点突破、そしてビハラー仲間を増やしながらかつ活動の歩みを進めてきました。

そこでピラミッド論で、基礎部分には広く家庭・寺院・病院・福祉施設で老病死の苦悩に関わる活動をし、世の信頼を得、そのベースにのっとなって、頭頂部分には人間成就期ともいうべきターミナル（終末）の時期に在宅・病院・福祉施設で関わる活動をしていくという理解をもったことでした。



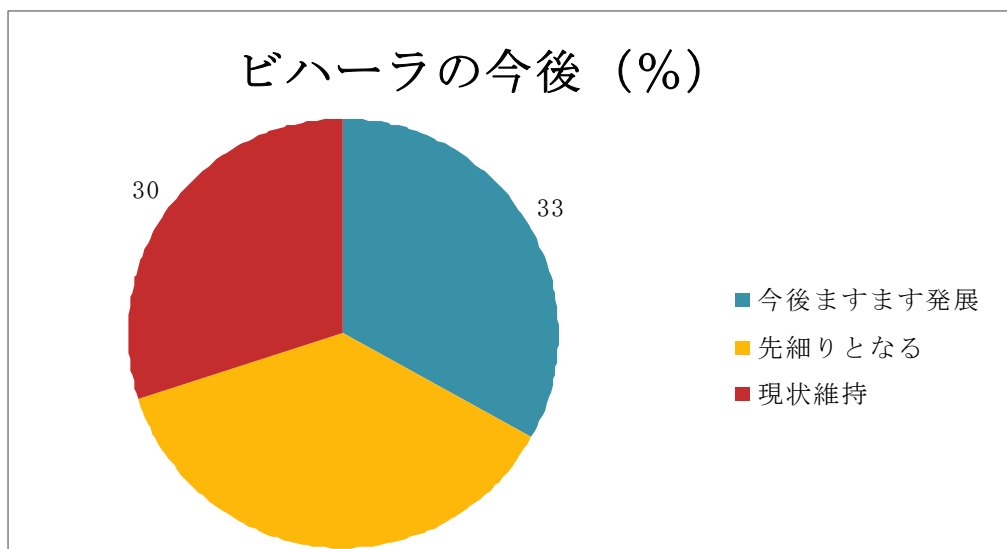
やがて、WHO（世界保健機構）も健康について一つの方向性を打ち出し、世界の共通の理解に供しました。健康の対極には、苦痛がありそれぞれにケアがあることとなります。分野として、身体的分野・社会的分野・心理的分野があるとされてきましたが、近年スピリチュアルな分野が必要と認められ、日本では、「霊的」「実存的」「宗教的」と様々に翻訳されています。



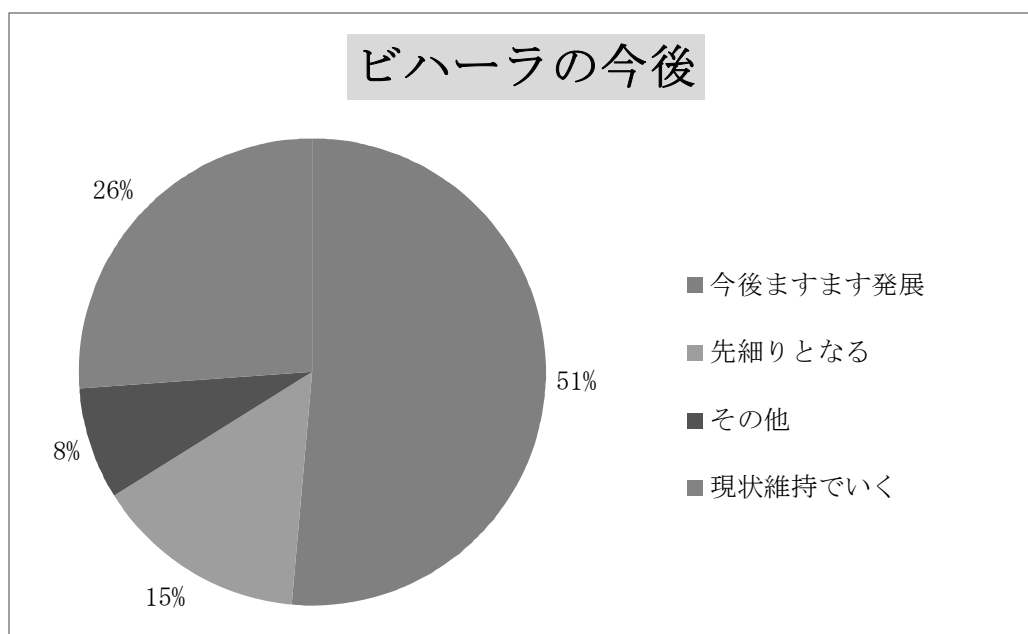
緩和ケアにおけるケアの上に欠かせない事柄として、「全人的ケア」すなわち身体にかかわる部分だけを切り離すのではなくて、人間を全体的・人格的生活体として考え、本人の痛みに相応したケアを行うこととなります。

欧米のように病院が宗派立で、入院しても信仰が生き続けている人たちのいるところではホスピスが発達しましたが、日本の場合は高次の精神性の貧困ひいては宗教ケアの貧困と分析（「生命倫理事典」太陽出版より）されています。

このような貧困に対し取り組む課題は大小様々にあり、またそれだけにビハーラ活動への期待度が高いといえます。ビハーラ会員は、自分たちの活動の今後をどのように思っているでしょうか。



(ビハーラ活動 10 年総括書より)



(2007 年度調査時)

ここ 10 年間で「先細り」を懸念する人は少なくなり、「ますます発展する」と感じる人が多くなっています。宗門内も社会全体も、認知度・期待度が上がったといえましょう。

(2) これからの課題

これからのビハーラ活動が成長期・収穫期となるにはどのようなことが必要でしょうか。ここまで総括をしてきましたが、主として様々な統計やアンケートを用いてトータルな傾向を見てきました。人によっては、ビハーラ活動は統計や数字になじまないという声も聞きます。その意味で、一人の活動をトレースしたり、一つの項目をビハーラの現場として

見ていくことも大切ですが、そうしたミニマムな視点から総括することは、別の機会に譲りたいと思います。

ここまでの総括をもとに、これからのビハーラの取り組む事柄はどういう問題があるか、5点ピックアップいたします。

①ビハーラ活動の拡大と深化を基本に取り組む

ビハーラ活動で常に浮上する問題は、会員の高齢化、現場の要請に応えられる会員がいない、いつも決まった人たちで周りの寺院の理解がなく参加してもらえないといったことがあります。確かに活動者の増強、人材の養成、実践場所の拡大は急がなければなりません。新たに教区内ビハーラが多く生まれている現状からは、教区ビハーラと密接な連携が望まれます。

これまでのビハーラ活動を見ますと、活動領域も、活動方法も活動人材も様々でした。それだけに多方面にわたって、臨床から学んだものも多くあります。そこにはクライアントの表現を活発化・深化させていくスパイラル・レスポンス（らせん反応）から学んだことも多いはずで、それらを見える形で提示していく作業が必要になってきています。

②ビハーラ活動に有効な啓発を進める

時間や場所を問わずビハーラ活動を知るあらゆる機会をえて、必要な視覚聴覚に訴える資料の作成と有効活用が大切になっています。魅力的なビハーラのホームページ作りもその一つでしょう。振り向いてもらえる内容物、ビハーラに参加したいという欲求を呼び起こす内容物、よく理解してもらえる内容物、もっているものを解決してもらえる内容物、行動を呼び起こす内容物などが考えられます。その手法は現代の様々な伝達物を利用すべきでしょう。ビハーラの活動レベルに応じたDVD作成なども考えられます。

③機能的に人材養成を進める

活動者育成のすべてを現在の「ビハーラ活動者養成研修会」で行うことには無理があり、組や教区ですすめることのできるモデルカリキュラムの提示も必要です。

現在、養成研修を終えても教区ビハーラとリンクされていない例が出てきます。また養成研修修了者よりもビハーラ会員の少ない教区もあります。研修修了時に、はっきりこれからの行動についてガイダンスする必要があります。また、講師団どうしの打ち合わせ、全体的理解、習熟度の分析など講師団会議をもつて取り組む必要もあります。

④情報の収集と提供をしていく

ビハーラ活動の全国集会、連区研修会、教区研修、そしてビハーラのカンファレンスなど活動現場に近くなればなるほど、ケアの問題が出てきます。その出ている問題が、個人的発表の段階にとどまり、集約される作業がまだできていません。

活動者一人ひとりが現場でビハーラ活動者としてのケアの体験をもっています。活動記録が集約されるなかで、生まれるものもあるのではないのでしょうか。

⑤教区ビハーラの充実をはかり、教区内のビハーラの連携を強化する

ビハーラの組織的重心は、教区ビハーラにあります。そのためには教区内のビハーラはもちろん会員の動向も常に掌握しておかなければなりません。また、教区代表者とコーディネーター役と教区専従員は、最も密接に連携をすることが望まれています。

なお、中央では当初養成研修会を修了した人を対象に、ビハーラ研究会の会員制度もありましたが、教区会員と中央の限られた会員と一致しないために不都合を生じ取りやめになっています。

今後、教区会員をベースに全国のビハーラ会員という形を形成するかどうか、時宜を得て検討する課題です。

9. あとがき

私たちの教団には、寺院社会化論・寺院開放論・寺院再生論のなかで 1870 年代からの注目すべき福祉展開があります。1873 年の京都療病院の開業式、1898 年の看護婦養成所の開設、さらには全国各地で孤児院、感化院、育児院を開設してきた歴史を保有しています。

今日のビハーラ活動は寺院内活動にとどまらず、社会活動として深く病院や福祉の施設さらには在宅と関わってきました。それら社会に訴求力があるようにするには、3つの要点があります。ネーミング（名称）とキャッチコピー（スローガン）とパッケージ（提供できる形と内容など）です。これらは今後さらなる 10 年のビハーラ活動展開のいかんにかかわっています。

今日の社会状況からは、アドボカシーの実現要求に直面することも間々あります。すなわち、患者や老人自らの意思の表明の実現や権利の擁護、場合には代弁の取り組みも出てくることです。

ビハーラ活動によって、全日本仏教会でもビハーラ部会を組織化するよう促し、場合によっては請願陳情なども出てくることでありましょう。

本書は、様々な調査やアンケートを通し、分析・作成されています。一方、ビハーラ活動は数字や統計になじまないもので、具体的臨床の場によってこそ得られる内容が大切だという主張もあります。この点、本書では大部になることと作成期限もあり取り入れておりません。それは今後の「ビハーラ活動記録集」などの集約をまちたいと思います。また、このたびは客観的資料によってビハーラの動向や結果を精査することに重点を置いてきました。そのため「ビハーラと伝道活動の関係」「ボランティアとビハーラとの関係」「仏教ケア（ビハーラ・ケア）の特長」など取り扱っていない問題もあり、今後の事業に譲るところであります。

この作成に当たって教区ビハーラ代表者、およびビハーラ事務担当者の再三にわたる統計依頼、アンケート回答依頼に応じていただき、協力いただいたことに深甚の謝意を表する次第です。

以 上

ビハーラ活動 20 年総括書編纂の経緯

2005(平成 17)年 2 月	2004(平成 16)年度第 2 回ビハーラ活動推進委員会 20 年総括書発行に伴う各教区への調査・編纂作業を企画研究専門部会に付託
2005(平成 17)年 6 月	2005(平成 17)年度第 1 回企画研究専門部会 各教区へのアンケート調査の内容を検討
2007(平成 19)年 9 月	第 1 回各教区アンケート調査実施
2009(平成 21)年 7 月	2005(平成 17)年度第 1 回ビハーラ活動推進委員会 第 1 回アンケート調査の取りまとめ状況を報告 各教区内のビハーラ活動者数について、再調査の実施を決定
2009(平成 21)年 9 月	第 2 回各教区アンケート調査実施
2010(平成 22)年 2 月	2009(平成 21)年度第 2 回ビハーラ企画研究専門部会 20 年総括書案を取りまとめる
2010(平成 22)年 2 月	2009(平成 21)年度第 2 回ビハーラ活動推進委員会 20 年総括書発刊を決定

委員名簿

◆企画研究専門部会◆

		氏 名	任期
1	部会長	櫻 井 瑞 彦	2007（平成19）年4月1日～
2	専門委員	一 乗 康 純	2007（平成19）年4月1日～
3	〃	小 川 真理子	2007（平成19）年4月1日～
4	〃	河 邊 卓	2007（平成19）年4月1日～2009（平成21）年3月31日
5	〃	木 村 善 友	2009（平成21）年4月1日～
6	〃	佐々木 恵 雲	2007（平成19）年4月1日～2009（平成21）年3月31日
7	〃	野 村 康 治	2007（平成19）年4月1日～
8	〃	原 谷 晃	2007（平成19）年4月1日～2009（平成21）年3月31日
9	〃	日 野 和 憲	2009（平成21）年4月1日～